

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。  
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

#### 安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

#### 一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。



- 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

### <施工の前に>

**注意**

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- 設置場所の確認をしてください。
  - ・施工場所に寸法的に正しく納まるか確認してください。
  - ・施工場所の気象条件(風、雪など)に合った商品かどうか確認してください。
  - ・建物の屋根からの雪の落下を、直接受けない位置かどうか確認してください。
  - ・給湯器や暖房機などの熱排気が、製品に直接当たらないように施工してください。排気による塗装劣化・剥離(はくり)のおそれがあります。
  - ・給湯器や暖房機などの熱排気が製品内(屋根・パネルなどで囲んだ内部)にこもるような場所に施工しないでください。排気による中毒や塗装劣化・剥離(はくり)のおそれがあります。
  - ・強風地域、特に崖上、屋上、風の通り道上などの施工は避けてください。
- 給排水管などの地下埋設物に影響を与えないでください。
- 傾斜地に設置する場合は、低い場所の柱の埋込み深さを確保してください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

## <施工上のご注意>

### ⚠ 注意

- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
  - ・ 作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具）を正しく使用してください。
  - ・ 作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。  
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
  - ・ 器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
  - ・ 作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
  - ・ 作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分確認し、健康管理を実施してください。
  - ・ 万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
- 樋の端末以降の排水については、当社供給範囲外になっていきますので、施工店様または施主様で手配してください。
- 風当たりの強い場所では、ヤードの周囲を囲わないようにしてください。風が抜けなくなり破損のおそれがあります。
- アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト、ネジなどにゆるみがないか確認してください。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 指定の箇所にシーリングをしてください。

## <基礎工事について>

### ⚠ 注意

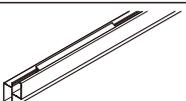
- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。
- 柱内の水抜きができるよう、基礎には必ず栗石を敷いてください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。
- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めています。現場によって（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。

## ■ 梱包明細表

### 【1】柱セット

名 称	略 図	員 数			
		両支持	片支持	ワイド	傾斜
両支持柱		1	—	—	—
片支持柱		—	1	—	—
ワイド柱		—	—	1	—
傾斜柱		—	—	—	1

### 【2】桁セット

名 称	略 図	単独	基本右	基本左	連棟右	連棟左
桁(単独)		1	—	—	—	—
桁(基本右)		—	1	—	—	—
桁(基本左)		—	—	1	—	—
桁(連棟右)		—	—	—	1	—
桁(連棟左)		—	—	—	—	1
孔ふさぎ		1	—	—	1	1
アタッチメントパッキン		1	—	—	1	1

### 【3】ワイド桁セット

名 称	略 図	W30~W45				W50~W60			
		単独	基本右	基本左	連棟	単独	基本右	基本左	連棟
ワイド桁(単独)		1	—	—	—	—	—	—	—
ワイド桁(基本右)		—	1	—	—	—	—	—	—

## ■梱包明細表(つづき)

### 【3】ワイド桁セット(つづき)

名 称	略 図	W30~W45				W50~W60			
		単独	基本右	基本左	連棟	単独	基本右	基本左	連棟
ワイド桁(基本左)		-	-	1	-	-	-	-	-
ワイド桁(連棟)		-	-	-	1	-	-	-	-
ワイド桁B(単独)		-	-	-	-	1	-	-	-
ワイド桁B(基本右)		-	-	-	-	-	1	-	-
ワイド桁B(基本左)		-	-	-	-	-	-	1	-
ワイド桁B(連棟)		-	-	-	-	-	-	-	1
孔ふさぎ		-	-	1	1	-	-	1	1
ワイド桁裏板		-	-	-	-	-	-	1	1
アタッチメントパッキン		-	-	1	1	-	-	1	1

### 【4】端部アーチセット

名 称	略 図	員 数	名 称	略 図	員 数
端部アーチ		2	中間アーチ		1
端部アーチカバー		2	中間アーチカバー		1

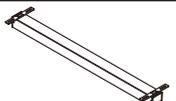
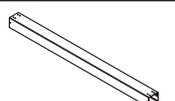
### 【5】中間アーチセット

名 称	略 図	員 数
中間アーチ		2
中間アーチカバー		2

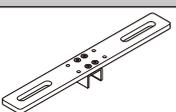
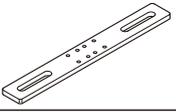
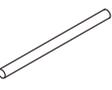
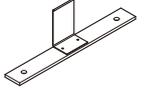
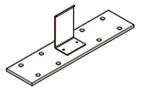
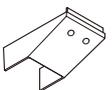
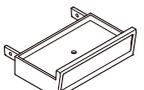
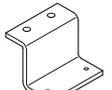
### 【6】前枠セット

名 称	略 図	員 数
前枠		2

【7】梁セット

名 称	略 図	員 数		名 称	略 図	員 数	
		標準	傾斜			標準	傾斜
梁		1	—	傾斜梁		—	1

【8】柱部品セット

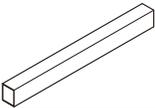
名 称	略 図	員 数									
		両支持		片支持		両支持傾斜		片支持傾斜		ワイド	
		端部	連結部	端部	連結部	端部	連結部	端部	連結部	端部	連結部
柱金具		4	2	—	—	—	—	—	—	—	—
柱金具A		—	—	—	—	4	2	4	2	—	—
アンカー棒		4	2	—	—	4	2	—	—	4	2
雨樋連結材		—	2	—	2	—	2	—	2	—	2
桁スリーブ		—	2	—	2	—	2	—	2	—	—
ワイド桁スリーブ		—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
スペーサー		—	—	2	1	—	—	2	1	—	—
柱カバー		—	—	4	2	—	—	4	2	—	—
傾斜ブラケット上		—	—	—	—	4	2	4	2	—	—
傾斜ブラケット下		—	—	—	—	—	—	4	2	—	—
傾斜梁キャップ		—	—	—	—	—	—	4	2	—	—
傾斜梁金具		—	—	—	—	—	—	4	2	—	—
【8-1】M10×30六角ボルト		8	4	8	4	8	4	16	8	16	8
【8-2】M12平座金		8	4	8	4	8	4	16	8	16	8
【8-3】M10バネ座金		8	4	8	4	8	4	16	8	16	8

## ■ 梱包明細表(つづき)

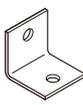
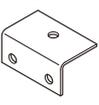
### 【8】柱部品セット(つづき)

名 称	略 図	員数									
		両支持		片支持		両支持傾斜		片支持傾斜		ワイド	
		端部	連結部	端部	連結部	端部	連結部	端部	連結部	端部	連結部
【8-4】M6×20六角ボルト 座金組込(PW+SW)		16	8	—	—	—	—	—	—	—	—
【8-5】φ5×12トラスタッピンネジ3種		—	8	—	8	—	8	8	12	—	8
【8-6】M5×16ナベ小ネジ		—	—	4	2	—	—	4	2	—	—
【8-7】M5バネ座金		—	—	4	2	—	—	4	2	—	—
【8-8】M10×45六角ボルト		—	—	16	8	—	—	16	8	—	—
【8-9】M10平座金		—	—	16	8	—	—	16	8	—	—
【8-10】M10バネ座金		—	—	16	8	—	—	16	8	—	—
【8-11】M12×40六角ボルト		—	—	—	—	4	2	4	2	—	—
【8-12】M12平座金		—	—	—	—	8	4	8	4	—	—
【8-13】M12バネ座金		—	—	—	—	8	4	8	4	—	—
【8-14】M12六角ナット		—	—	—	—	4	2	4	2	—	—
【8-15】M5×20サラ小ネジ		—	—	—	—	16	8	16	8	—	—
【8-16】M8×25六角ボルト 座金組込(PW+SW)		—	—	—	—	—	—	8	4	—	—
【8-17】M5×12ナベ小ネジ 座金組込(SW)		—	—	4	2	—	—	4	2	—	—

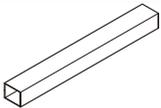
### 【9】ワイド梁セット

名 称	略 図	員 数	名 称	略 図	員 数
ワイド梁		1	【9-1】M10×25六角ボルト 座金組込(PW+SW)		8
			【9-2】M10×85 六角ボルト		4
ワイド梁ブラケット		4	【9-3】M10六角袋ナット		4
			【9-4】M10平座金		8
			【9-5】M10バネ座金		4

### 【10】束柱

名 称	略 図	員 数		名 称	略 図	員 数	
		2本入り	3本入り			2本入り	3本入り
束柱		2	3	【10-1】M10×25六角ボルト 座金組込(PW+SW)		4	6
				【10-2】M10×100六角ボルト		2	3
束柱ブラケットA		4	6	【10-3】M10六角袋ナット		2	3
				【10-4】M10平座金		4	6
				【10-5】M10バネ座金		2	3
束柱ブラケットB		4	6	【10-6】M6×80六角ボルト		4	6
				【10-7】M6六角ナット		4	6
				【10-8】M6平座金		8	12
				【10-9】M6バネ座金		4	6

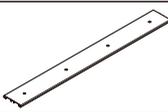
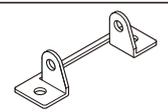
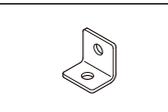
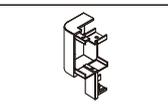
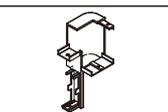
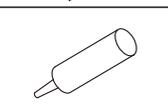
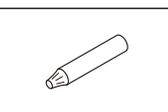
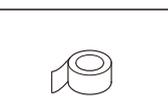
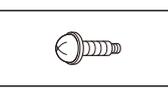
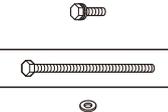
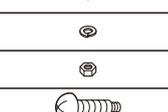
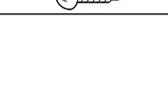
### 【11】棟木セット

名 称	略 図	員 数			名 称	略 図	員 数		
		単独	基本	連棟			単独	基本	連棟
棟木		1	2	1	棟木裏板		—	1	1

【11】棟木セット(つづき)

名 称	略 図	員 数			名 称	略 図	員 数		
		単独	基本	連棟			単独	基本	連棟
【11-1】M6×16六角ボルト 座金組込(PW+SW)		6	14	6	【11-2】φ5×16ナベドリルネジ		24	56	24

【12】アーチ部品

名 称	略 図	員 数											
		中間						端部					
		W15	W20・ 22	W25・ 27	W30・ 35・40	W45・ 50・55	W60	W15	W20・ 22	W25・ 27	W30・ 35・40	W45・ 50・55	W60
中骨		2	4	6	8	12	14	2	4	6	8	12	14
ワイド中骨		—	—	—	2	2	4	—	—	—	2	2	4
ワイド中骨カバー		—	—	—	2	2	4	—	—	—	2	2	4
アーチ金具		4	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2
端部アーチ金具		—	—	—	—	—	—	4	4	4	4	4	4
コーナーキャップR		—	—	—	—	—	—	2	2	2	2	2	2
コーナーキャップL		—	—	—	—	—	—	2	2	2	2	2	2
シーリング材		—	—	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補修ペン		—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1
アルミテープ		—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1
【12-1】φ5×12トラスタッピンネジ 3種樹脂座金付		19	26	33	55	72	88	29	39	49	78	104	118
【12-2】M6×16六角ボルト 座金組込(PW+SW)		8	8	8	8	8	8	16	16	16	16	16	16
【12-3】M6×80 六角ボルト		4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6
【12-4】M6平座金		8	8	8	8	8	8	12	12	12	12	12	12
【12-5】M6バネ座金		4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6
【12-6】M6六角ナット		4	4	4	4	4	4	6	6	6	6	6	6
【12-7】φ5×12トラスタッピンネジ3種		4	8	12	20	32	40	20	24	28	40	48	56

## ■ 梱包明細表(つづき)

### 【12】アーチ部品(つづき)

名 称	略 図	員 数											
		中 間						端 部					
		W15	W20・ 22	W25・ 27	W30・ 35・40	W45・ 50・55	W60	W15	W20・ 22	W25・ 27	W30・ 35・40	W45・ 50・55	W60
取付説明書	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1

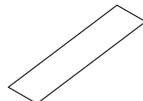
### 【13】縦樋セット

名 称	略 図	員 数			
		両支持		片支持	
		標準	傾斜	標準	傾斜
縦樋(φ40)		2	2	—	—
縦樋(φ60)		—	—	1	1
横樋		—	—	1	1
丸樋(φ40)		—	—	1	1
サドル		6	6	3	3
サドル受け		6	6	3	3
アタッチメント(φ40)		2	2	2	2
アタッチメントパッキン(φ40)		2	2	2	2
エルボ(φ40)		2	—	4	—
ドレンエルボ(φ40)		2	—	—	—
雨樋ジョイナー		2	2	2	2
アタッチメント(φ60)		—	—	1	1
アタッチメントパッキン(φ60)		—	—	2	2

【13】 樋セット(つづき)

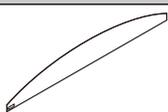
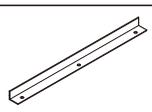
名 称	略 図	員 数			
		両支持		片支持	
		標準	傾斜	標準	傾斜
エルボ(φ60)		—	—	1	1
ドレンエルボ(φ60)		—	—	1	1
孔ふさぎ(φ60)		—	—	1	1
自在エルボ		—	4	—	4
横樋金具A		—	—	1	1
横樋金具B		—	—	1	1
【13-1】φ4×12トラスタッピンネジ3種		8	8	12	12
【13-2】φ5×12トラスタッピンネジ3種		12	12	6	6
【13-3】φ5×16ドリルネジ		12	12	8	8
【13-4】M4×10トラス小ネジ		—	—	2	2
【13-5】M4ナット		—	—	2	2
【13-6】M4バネ座金		—	—	2	2

【14】 屋根材セット

名 称	略 図	員 数		
		W15・20・ 22・25・27	W30・35・40・ 45・50・55	W60
屋根材		2	4	6

【15】 前面パネル

オプション

名 称	略 図	員 数
前面パネル		2
前面パネル押え		2
【15-1】φ5×16ドリルネジ		6

【16】 壁付けブラケット

オプション

名 称	略 図	員 数	
		前面	側面
壁付けブラケット		2	1
【16-2】M10×45六角ボルト		4	—
【16-3】M10平座金		4	—
【16-4】M10バネ座金		4	—

【17】 水きり材

オプション

名 称	略 図	員 数		
		単独	基本	連棟
水きり材		1	2	1

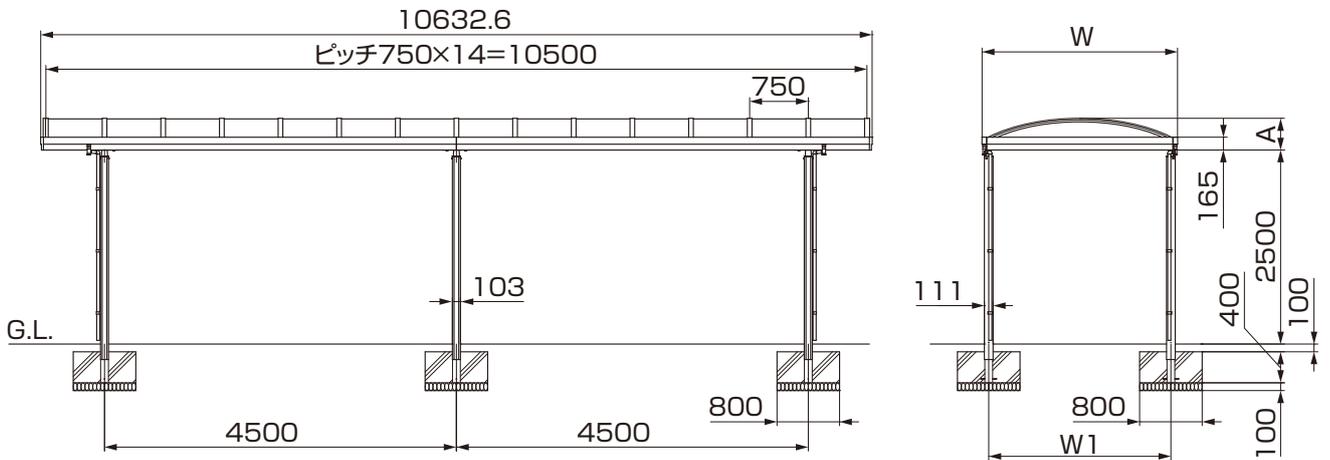
# INDEX

1	基本寸法図	11
2	基礎施工	15
3	柱金具の取付け	16
4	桁または梁と柱の取付け	17
5	ワイド梁の取付け (W50~W60の作業)	20
6	前枠と桁の取付け	21
7	アーチの取付け	22
8	中骨・ワイド中骨の取付け	22
9	屋根材の取付け	23
10	前面パネル <b>オプション</b>	24
11	ワイド仕様の屋根材の取付け	25
12	傾斜梁キャップの取付け	27
13	柱カバーの取付け	27
14	竖樋の取付け	28
15	壁付けブラケット <b>オプション</b>	31
16	水切り材 <b>オプション</b>	32

# 1. 基本寸法図

## 1-1 両支持

### (1) 基本



### (2) 単独

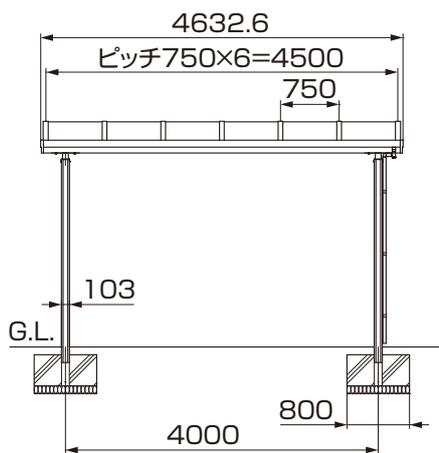
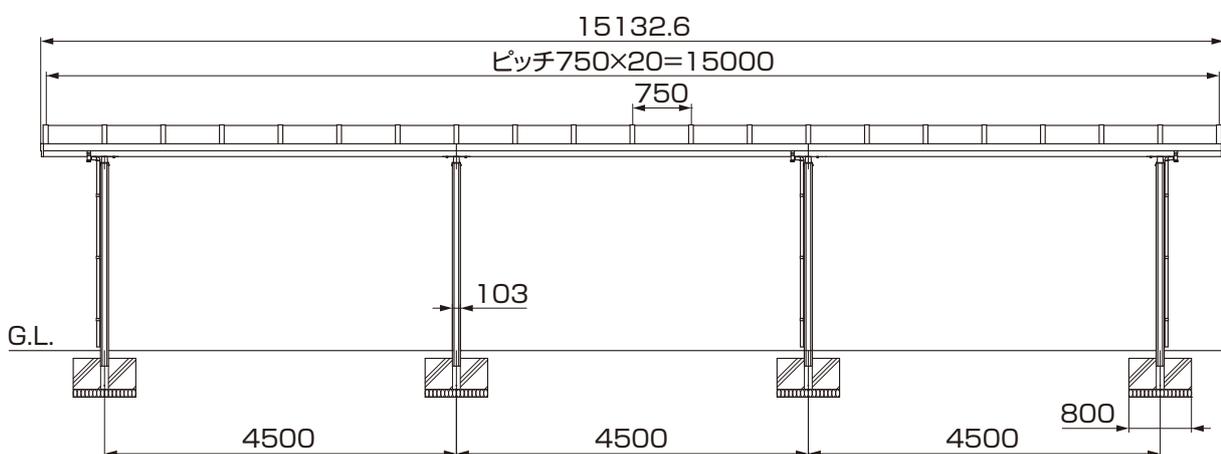


表1-1

	W	W1	A
W15	1500	1329.6	302.4
W20	2000	1829.6	355.6
W22	2200	2029.6	376.9
W25	2500	2329.6	408.7
W27	2700	2529.6	430

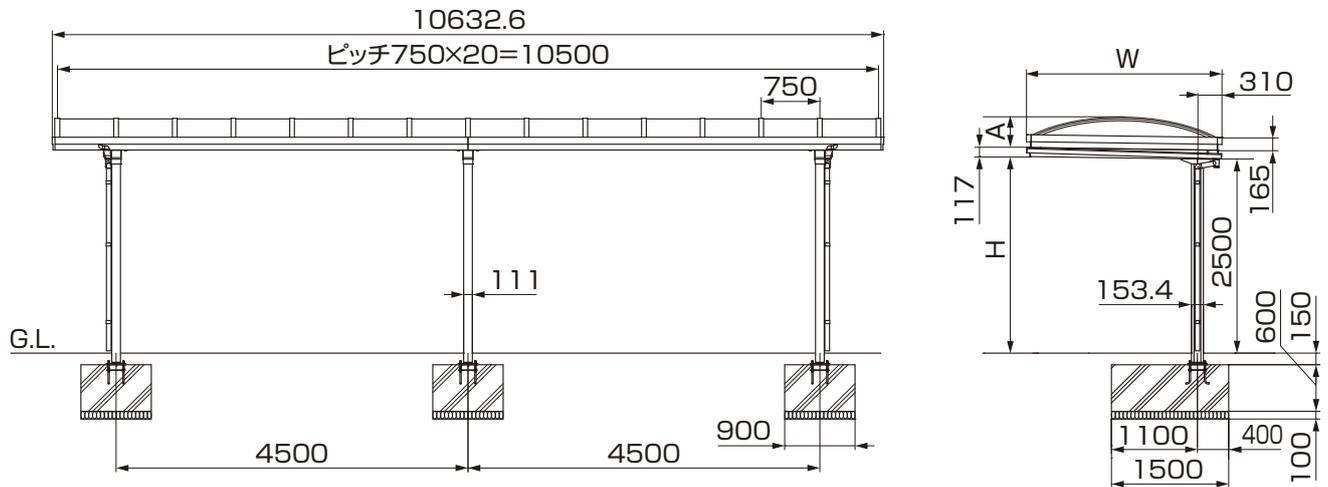
### (3) 連棟



# 1. (つづき)

## 1-2 片支持

### (1) 基本



### (2) 単独

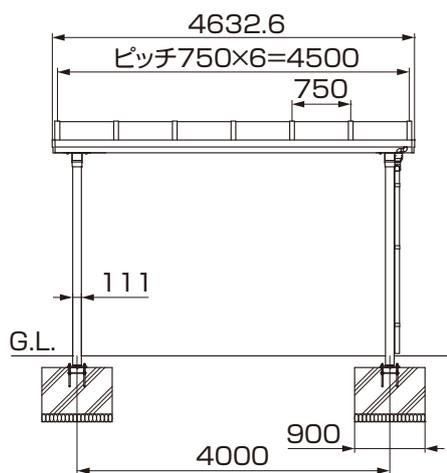
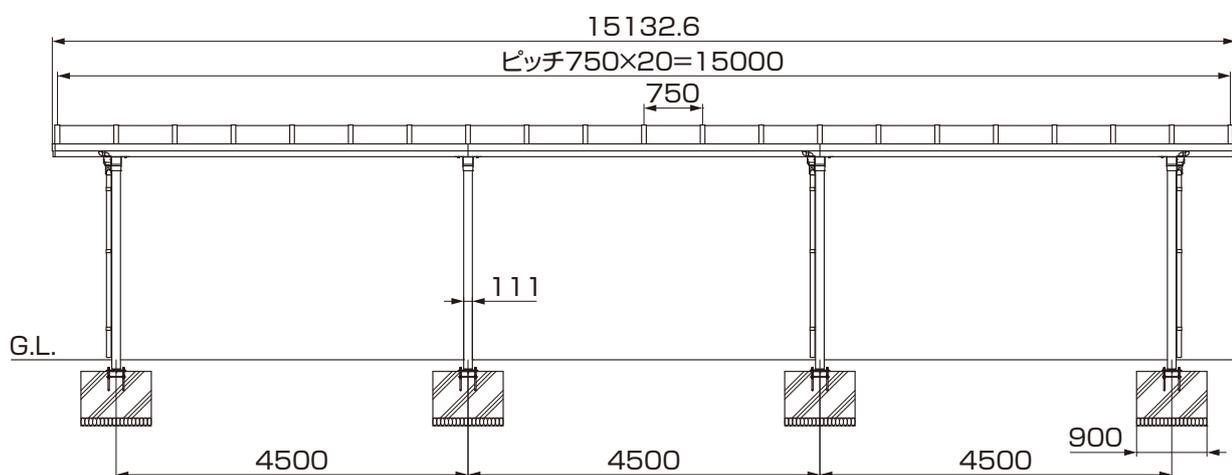


表1-2

	H	W	A
W15	2519	1500	302.4
W20	2526	2000	355.6
W22	2527	2200	376.9
W25	2533	2500	408.7
W27	2536	2700	430

※垂れ防止スペーサーを使用しない場合のH寸法はW寸法にかかわらず2500です。

### (3) 連棟



### 1-3 ワイド

(1) 基本 ※○箇所に梁、束柱が取り付けます

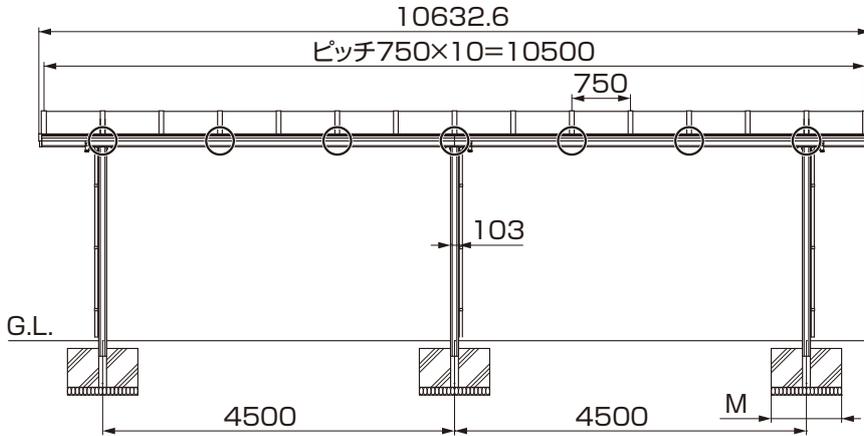
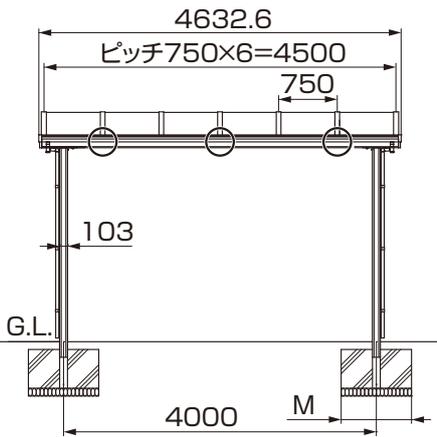


表1-3

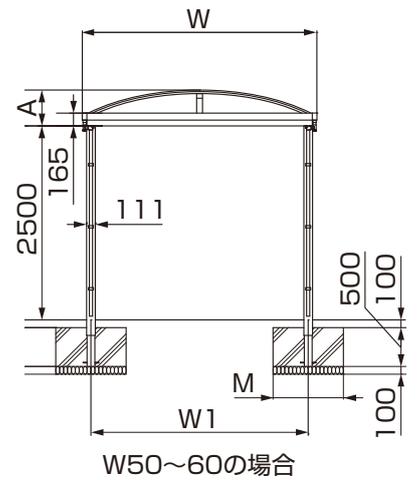
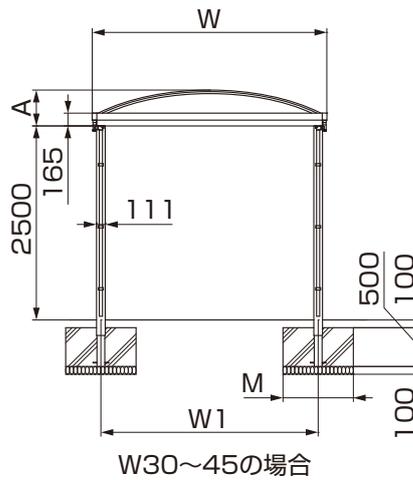
	W	W1	A	M
W30	3000	2778.8	462.3	900
W35	3500	3278.8	515.5	900
W40	4000	3778.8	568.6	900
W45	4500	4278.8	621.7	900
W50	5000	4778.8	674.7	1200
W55	5500	5278.8	727.9	1200
W60	6000	5778.8	781	1200

(2) 単独

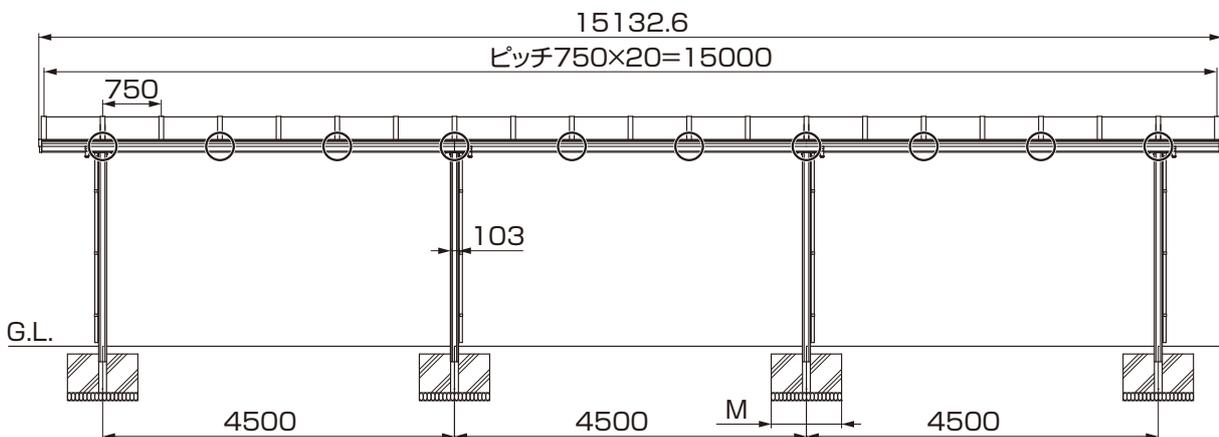
※○箇所に梁、束柱が取り付けます



(4) 側面図



(3) 連棟 ※○箇所に梁、束柱が取り付けます



# 1. (つづき)

## 1-4 傾斜

### (1) 両支持傾斜

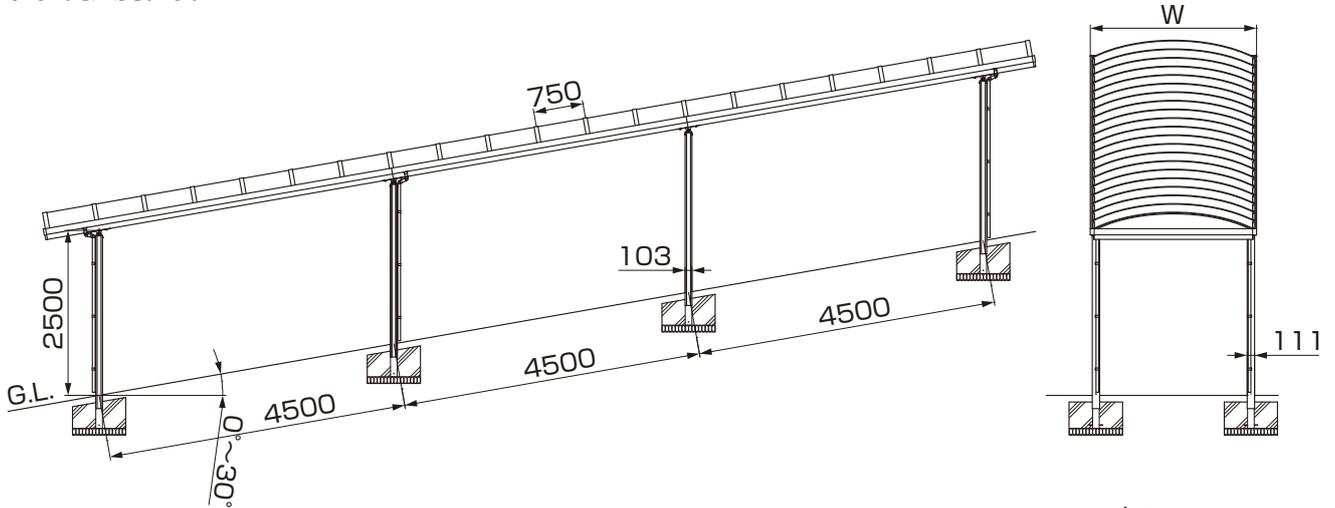


表1-4

	W
W15	1500
W20	2000
W22	2200
W25	2500
W27	2700

### (2) 片支持傾斜

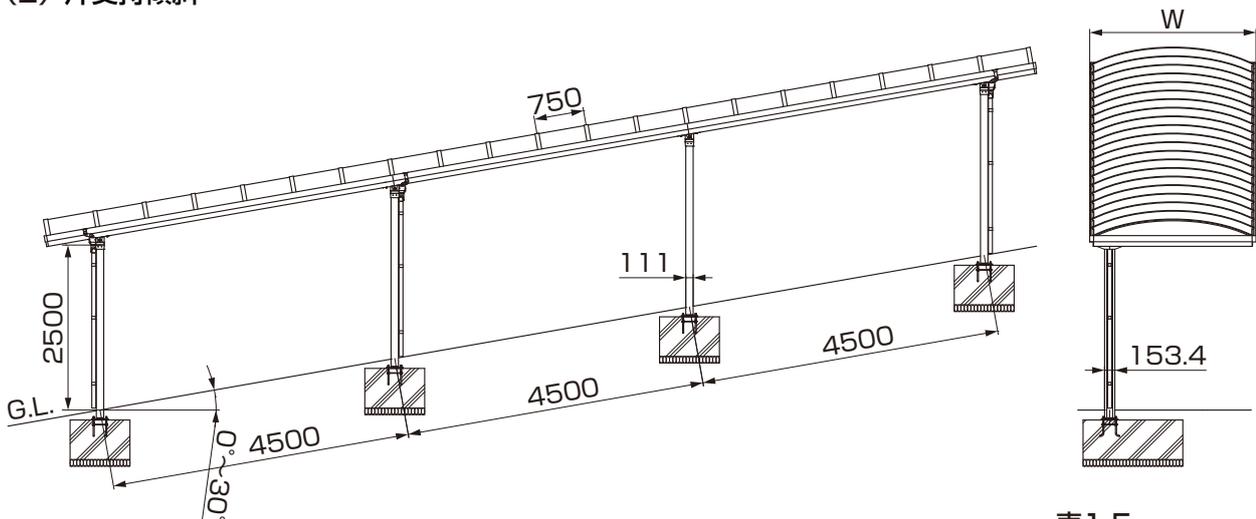


表1-5

	W
W15	1500
W20	2000
W22	2200
W25	2500
W27	2700

## 2. 基礎施工

### 2-1 両支持柱

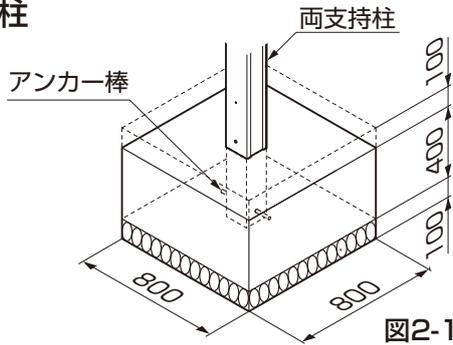


図2-1

### 2-2 片支持柱

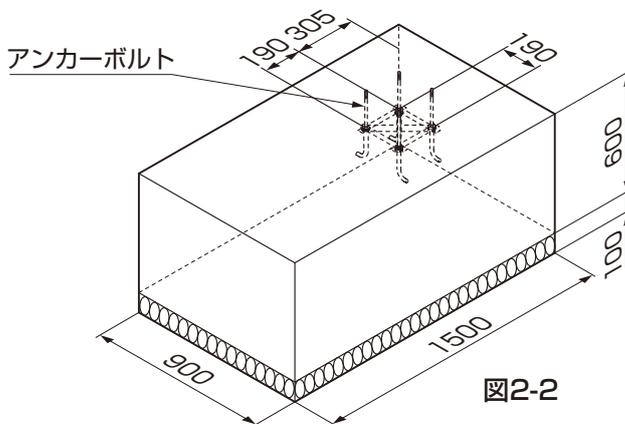


図2-2

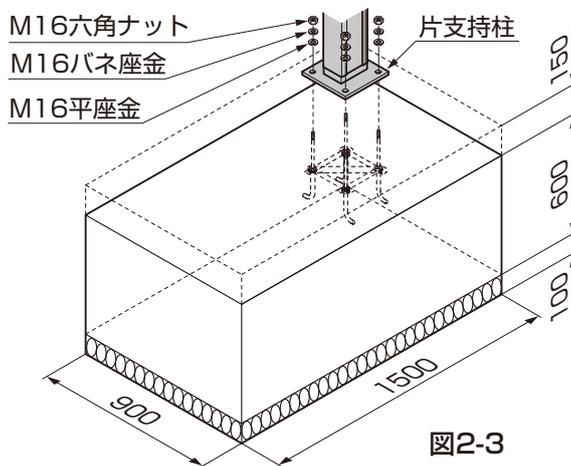


図2-3

### 2-3 ワイド柱

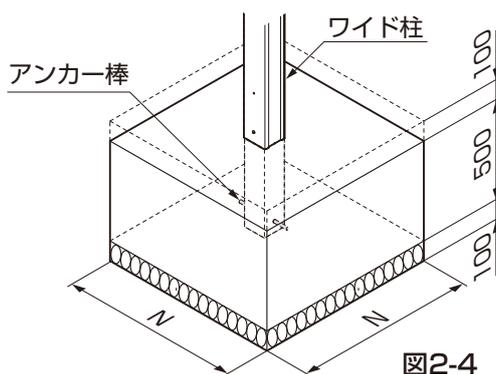


図2-4

#### 補足

- 基礎は基準風速34m/s、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力度50kN/m<sup>2</sup>の時の参考寸法です。

#### ポイント

- アンカーボルトは別途アンカーセットで施工してください。
- アンカーボルトの施工時には、必ずアンカーセットの取付説明書をお読みください。

#### 補足

- 基礎は基準風速34m/s、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力度50kN/m<sup>2</sup>の時の参考寸法です。

#### 補足

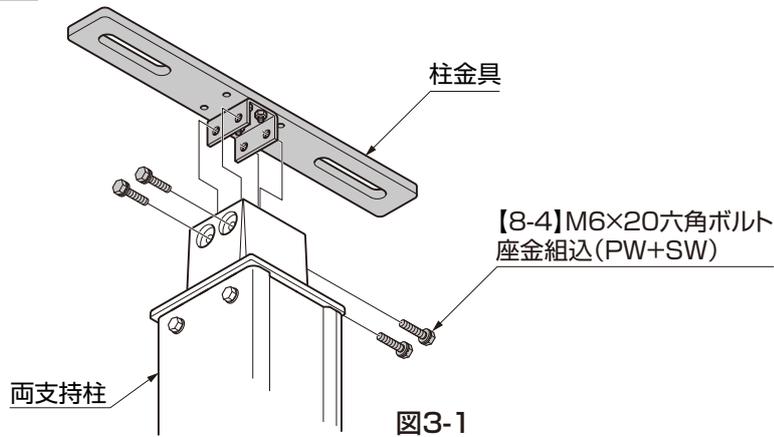
- 基礎は基準風速34m/s、地表面粗度区分Ⅲ、長期地耐力度50kN/m<sup>2</sup>の時の参考寸法です。

表2-1

	N
W30、W35、W40、W45	900
W50、W55、W60	1200

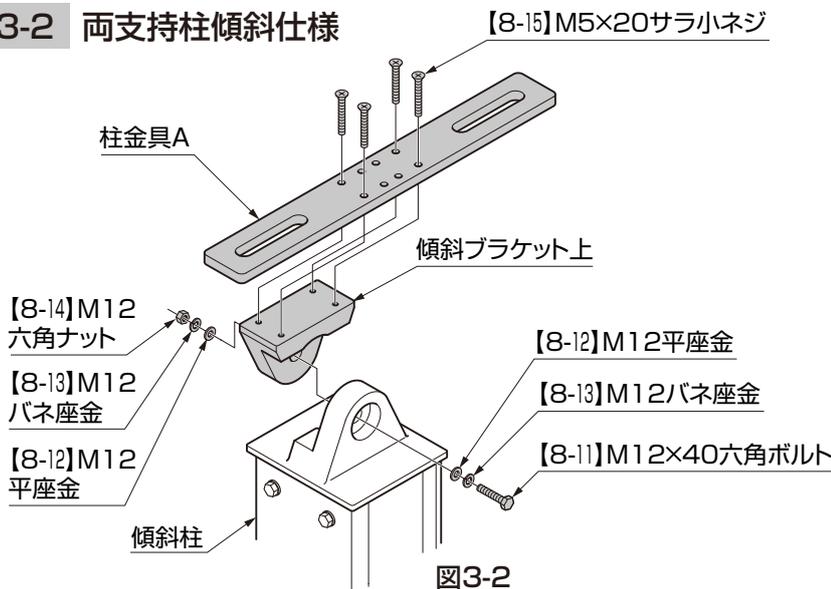
### 3. 柱金具の取付け

#### 3-1 両支持柱標準仕様



- ①柱金具に取付いているネジとナットにゆるみがないか確認してください。
- ②柱に【8-4】で柱金具を取付けてください。

#### 3-2 両支持柱傾斜仕様

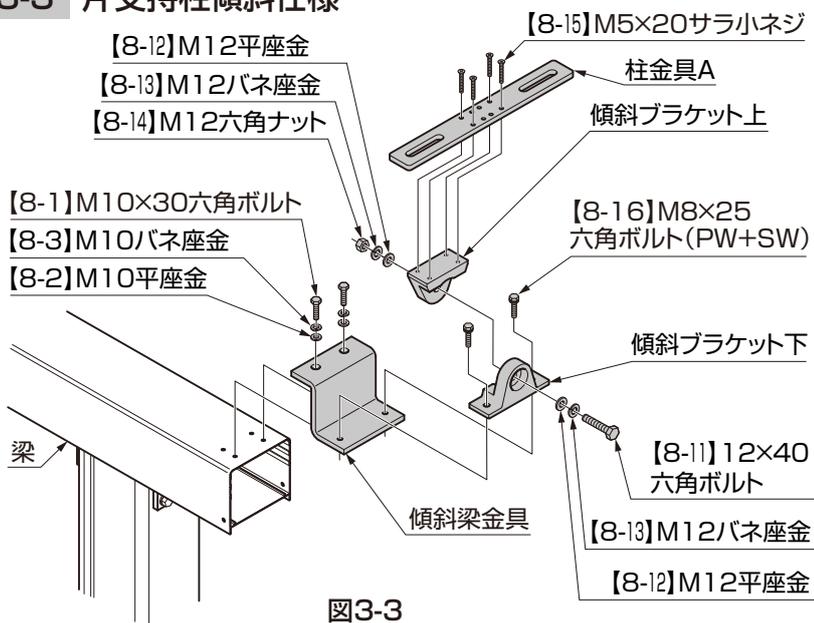


- ①傾斜ブラケット上に柱金具Aを【8-15】で取付けてください。
- ②①を【8-11】、【8-12】、【8-13】、【8-14】で柱に取付けてください。

#### ポイント

- 傾斜対応角度は30°までです。
- 傾斜ブラケットは桁取付後、角度調整してから締めつけてください。

#### 3-3 片支持柱傾斜仕様



- ①傾斜ブラケット上、下を【8-11】、【8-12】、【8-13】、【8-14】で仮固定してください。
- ②傾斜梁金具と①を【8-16】で取付けてください。
- ③柱金具Aを【8-15】で②に取付けてください。
- ④③を【8-1】、【8-2】、【8-3】で梁に取付けてください。

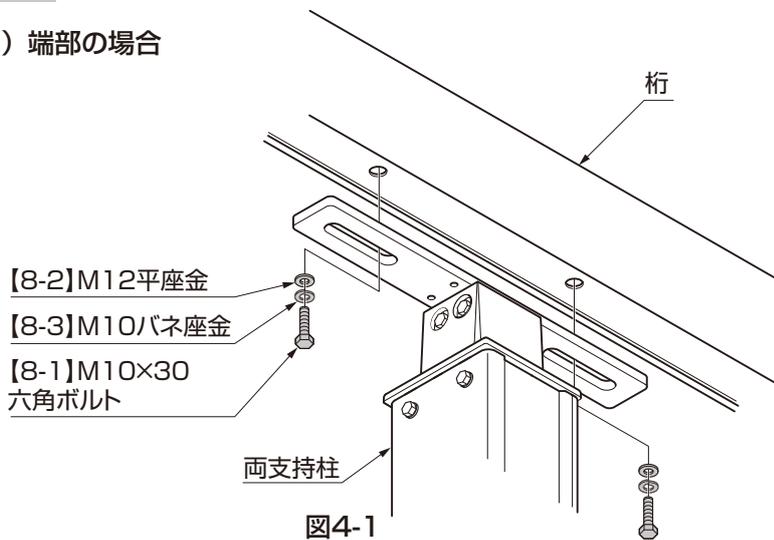
#### ポイント

- 傾斜対応角度は30°までです。
- 傾斜ブラケットは桁取付後、角度調整してから締めつけてください。

## 4. 桁または梁と柱の取付け

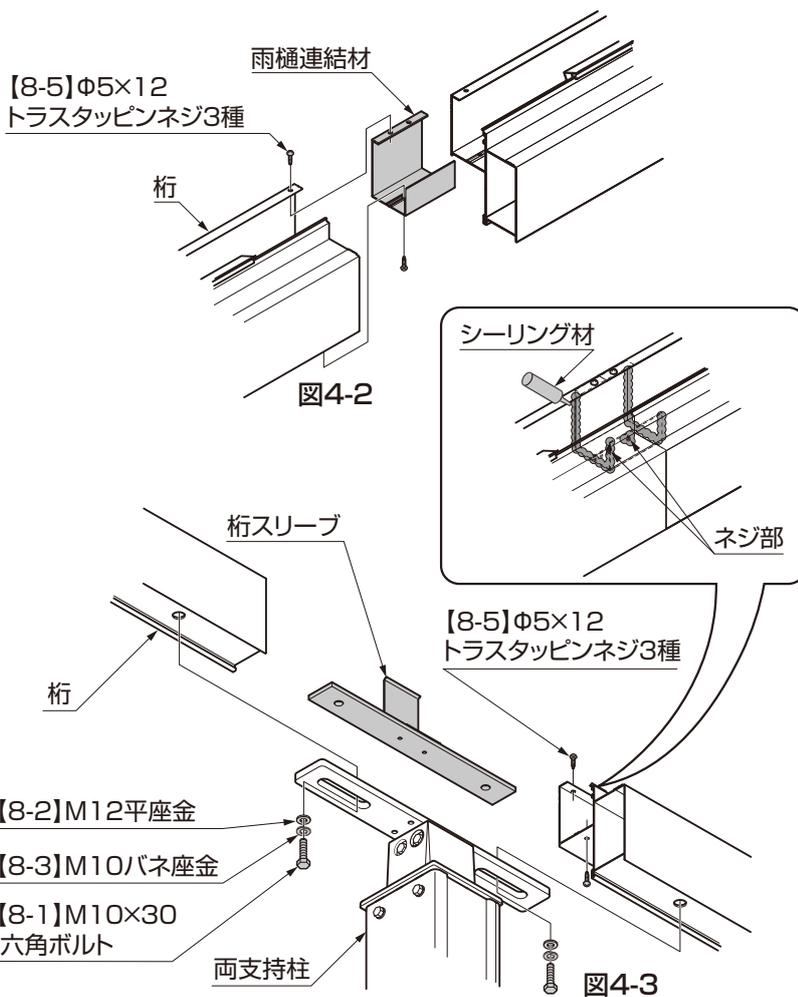
### 4-1 両支持柱

#### (1) 端部の場合



①【8-1】、【8-2】、【8-3】で図のように柱と桁を取付けてください。

#### (2) 連結部の場合



①一方の桁に雨樋連結材を差込んでください。

②桁スリーブと両支持柱を【8-1】、【8-2】、【8-3】で一方の桁に仮止めしてから、もう一方の桁を差込んでください。

③桁と桁の間にすき間がないように【8-1】、【8-2】、【8-3】で柱と桁を取付けてください。

④②で仮止めた【8-1】を完全に締付けてください。

⑤【8-5】で雨樋連結材を固定してください。

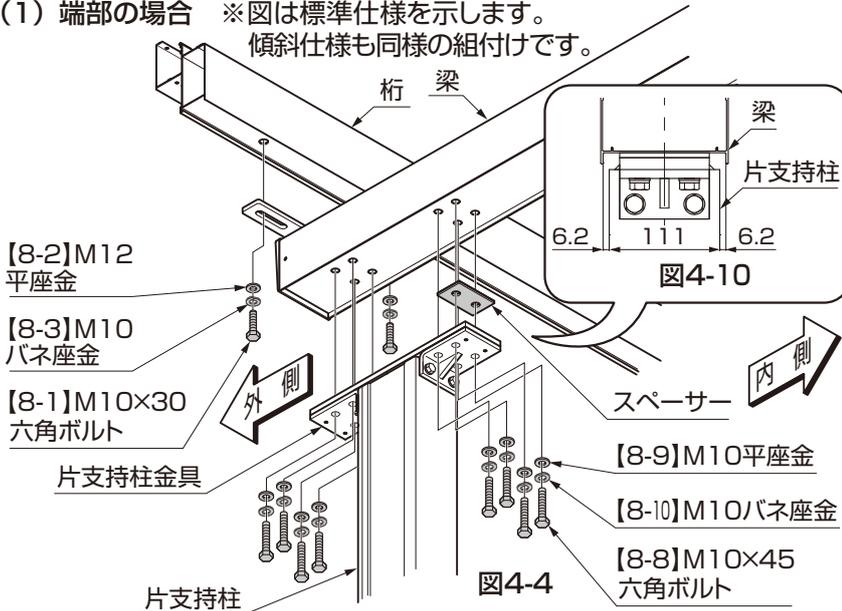
#### ポイント

●雨樋連結材の周囲とネジ部をシーリングしてください。雨漏りの原因となるおそれがあります。

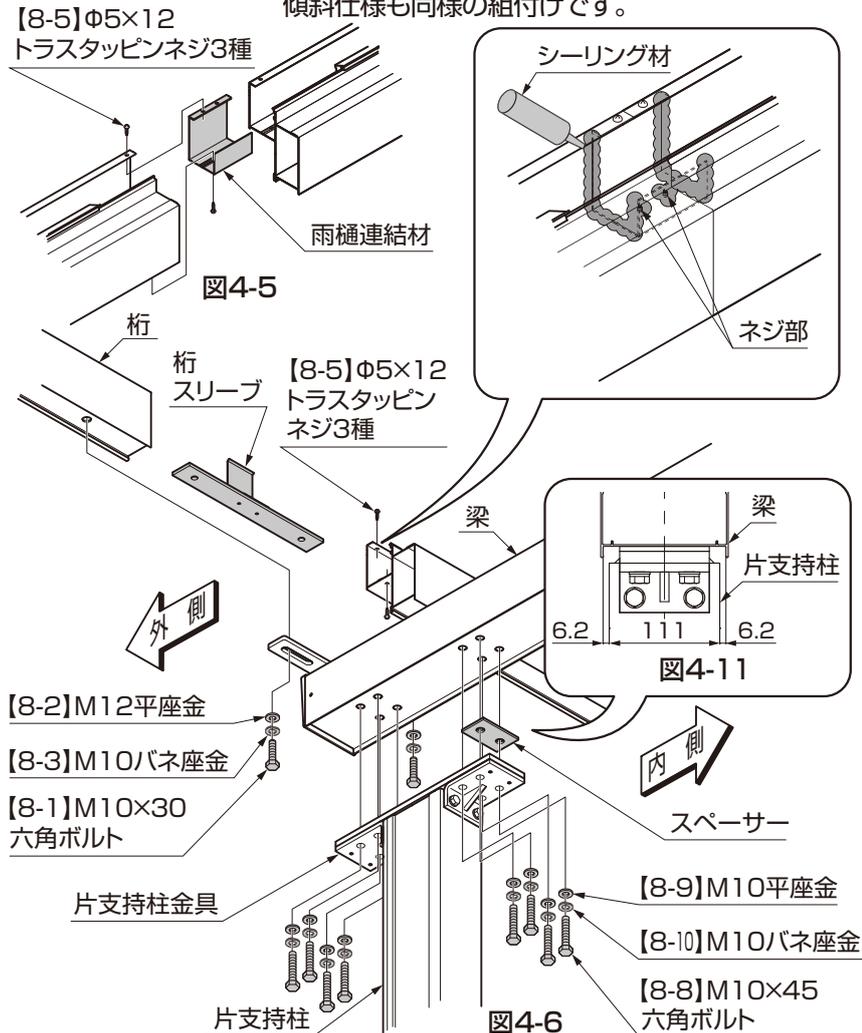
## 4. (つづき)

### 4-2 片支持柱

(1) 端部の場合 ※図は標準仕様を示します。  
傾斜仕様も同様の組付けです。



(2) 連結部の場合 ※図は標準仕様を示します。  
傾斜仕様も同様の組付けです。



#### 補足

●片支持柱スペーサーは柱または桁にテープ等で固定しておくこと取付作業がしやすくなります。

①片支持柱金具と梁の間に片支持柱スペーサーをはさみ、[8-8]、[8-9]、[8-10]で梁に片支持柱を取付けてください。

#### ポイント

●片支持柱スペーサーは片支持柱金具および梁の内側端部の孔にあうように取付けてください。

●梁と柱のセンターが合うように取付けてください。センターからずれて取付けた場合、柱カバーが取付かなくなるおそれがあります。(図4-10)

②梁と桁を[8-1]、[8-2]、[8-3]で図のように取付けてください。

①片支持柱金具と梁の間に片支持柱スペーサーをはさみ、[8-8]、[8-9]、[8-10]で梁に片支持柱を取付けてください。

②一方の桁に雨樋連結材を差込んでください。

③桁スリーブを一方の桁に入れ、梁を[8-1]、[8-2]、[8-3]で仮止めしてから、もう一方の桁を差込んでください。

④桁と桁の間にすき間がないように[8-1]、[8-2]、[8-3]で梁と桁を取付けてください。

⑤仮止めしたボルトを完全に締付けてください。

⑥[8-5]で雨樋連結材を固定してください。

#### ポイント

●雨樋連結材の周囲とネジ部をシーリングしてください。雨漏りの原因となるおそれがあります。

●片支持柱スペーサーは片支持柱金具および梁の内側端部の孔にあうように取付けてください。

●梁と柱のセンターが合うように取付けてください。センターからずれて取付けた場合、柱カバーが取付かなくなるおそれがあります。(図4-11)

## 4-3 ワイド柱

### (1) 端部の場合

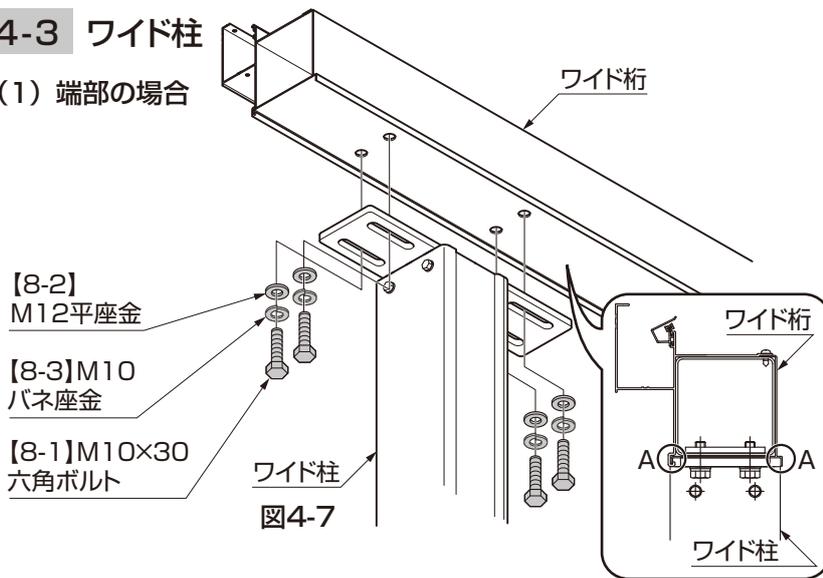


図4-7

- ① [8-1]、[8-2]、[8-3]で図のようにワイド桁とワイド柱を取付けてください。

#### ポイント

- ワイド桁からワイド柱がはみ出さないように取付けてください。(A部)

### (2) 連結部の場合

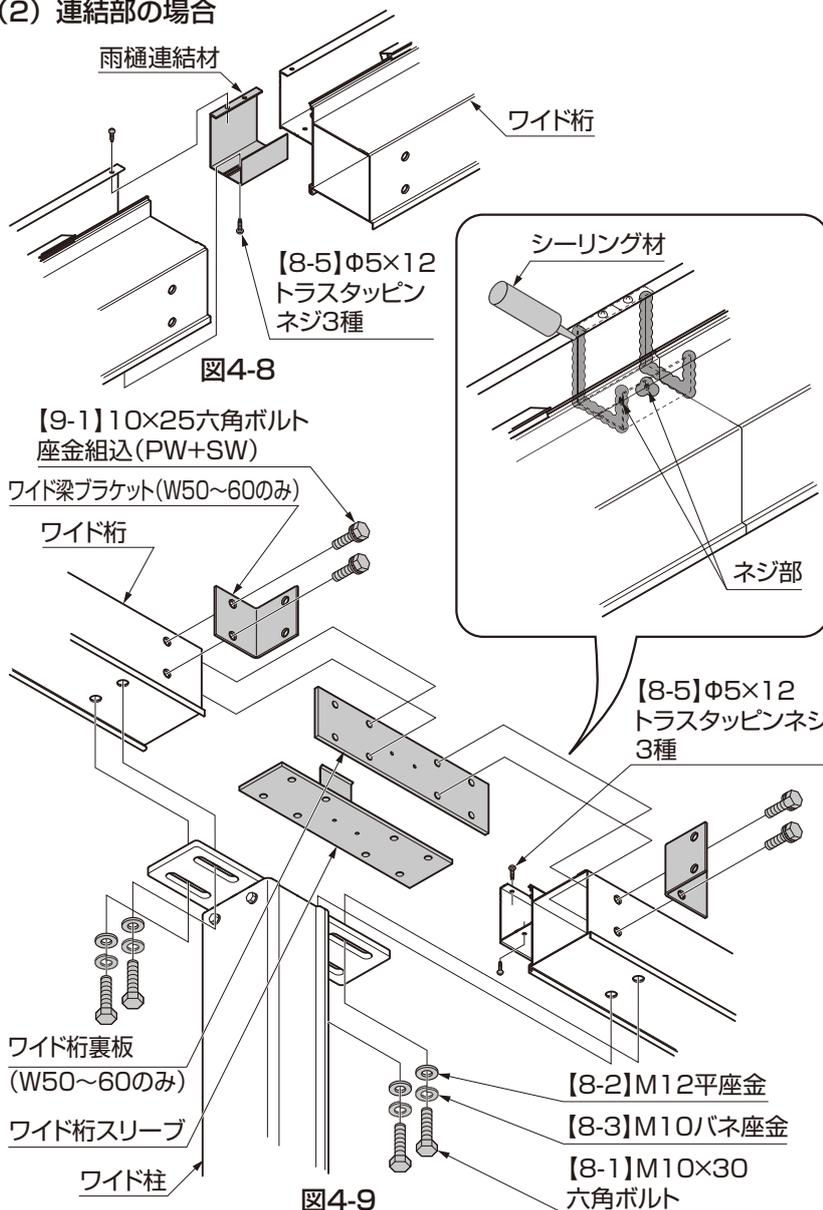


図4-8

図4-9

- ①一方のワイド桁に雨樋連結材を差込んでください。

#### ポイント

- W50~60の場合、ワイド桁裏板をワイド桁に差込み、一方をワイド梁ブラケットと一緒に[9-1]でワイド桁に取り付けてください。

- ②ワイド桁スリーブを一方のワイド桁に入れ、ワイド桁とワイド柱を[8-1]、[8-2]、[8-3]で仮止めしてから、もう一方のワイド桁を差込んでください。
- ③ワイド桁とワイド桁の間にすき間がないように[8-1]、[8-2]、[8-3]でワイド柱とワイド桁を取付けてください。
- ④仮止めしたボルトを完全に締付けてください。
- ⑤[8-5]で雨樋連結材を固定してください。

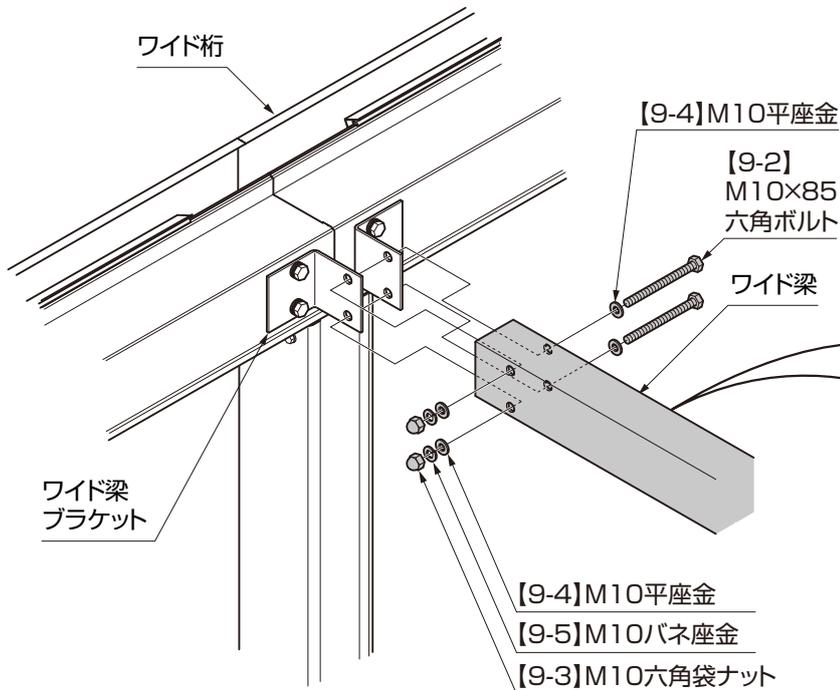
#### ポイント

- 雨樋連結材の周囲とネジ部をシーリングしてください。雨漏りの原因となるおそれがあります。

## 5. ワイド梁の取付け (W50~W60の作業)

※連結の場合は柱・桁の取付け時に行ってください。

### 5-1 ワイド梁の取付け ※図は連結部です。



- ①【9-2】、【9-3】、【9-4】、【9-5】でワイド梁ブラケットとワイド梁を固定してください。

#### ポイント

- ワイド梁は孔のあいている方が上面です。

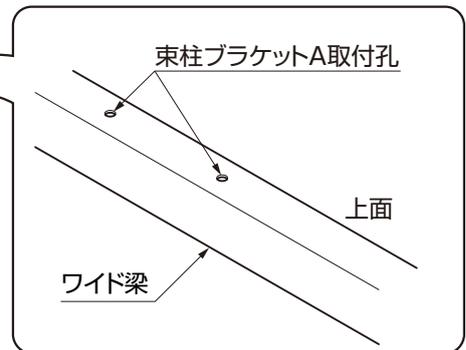
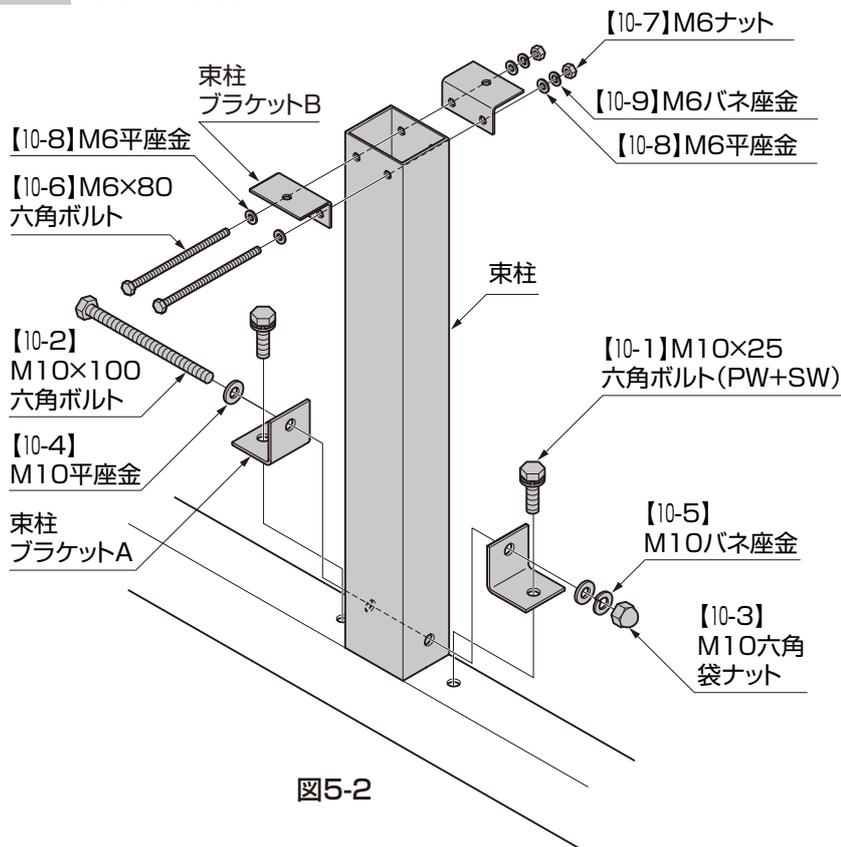


図5-1

### 5-2 束柱の取付け



- ①ワイド梁に束柱ブラケットAを【10-1】で取付けてください。
- ②【10-2】、【10-3】、【10-4】、【10-5】で束柱ブラケットAに束柱を取付けてください。
- ③束柱に束柱ブラケットBを【10-6】、【10-7】、【10-8】、【10-9】で取付けてください。

図5-2

### 5-3 棟木の取付 ※図は連結部の場合です。

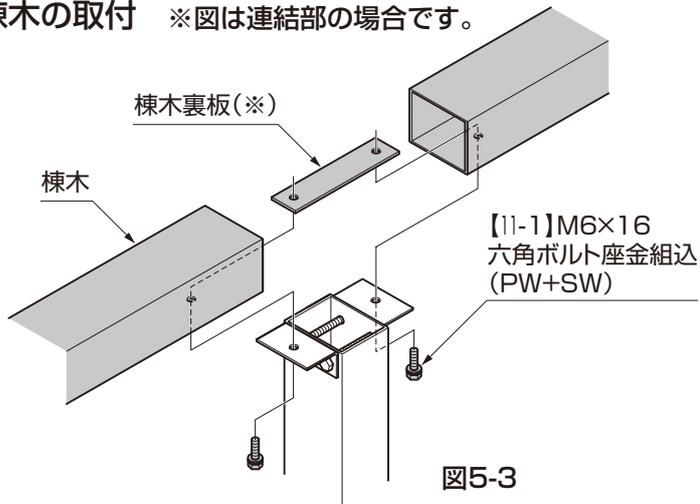


図5-3

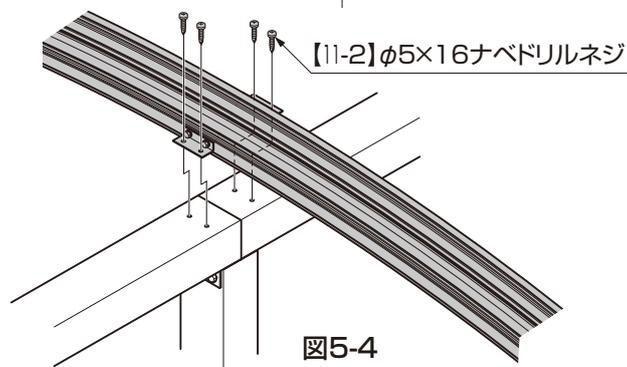


図5-4

#### ポイント

●連棟の場合は棟木裏板を取付けてください(※)。

①棟木を【11-1】で束柱に取付けてください。

②アーチ取付けの際、ブラケットを【11-2】で棟木にアーチを取付けてください。

## 6. 前枠と桁の取付け

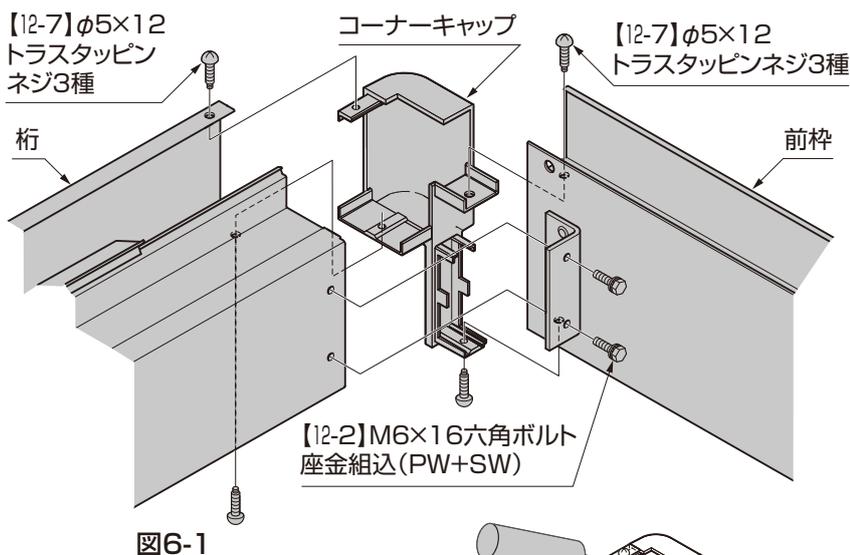


図6-1

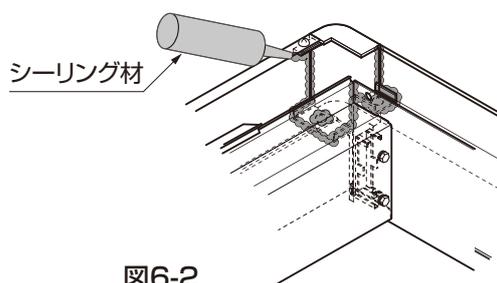


図6-2

①コーナーキャップを【12-7】で前枠に固定してください。

②①を桁側に差込み、前枠と桁を【12-2】で取付けてください。

③桁とコーナーキャップを【12-7】で固定してください。

#### ポイント

●コーナーキャップの周囲とネジ部をシーリングしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。

●コーナーキャップには左右があります。

●桁と前枠が直角に組付いているか確認してください。

## 7. アーチの取付け

### 7-1 中間アーチの取付け

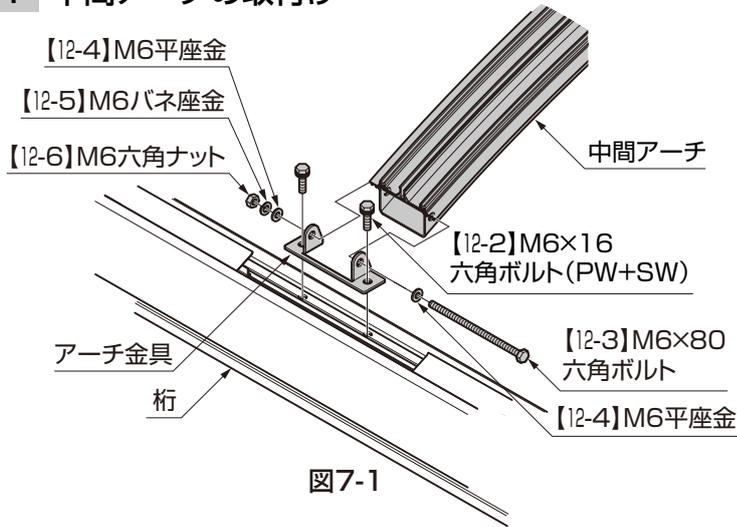


図7-1

- ①アーチ金具を【12-2】で桁に取付けてください。
- ②中間アーチをアーチ金具に【12-3】、【12-4】、【12-5】、【12-6】で取付けてください。

#### ポイント

- アーチと桁の直角がでていないと屋根材の取付けが困難になります。
- アーチ金具の取付け方向に注意してください。

### 7-2 端部アーチの取付け

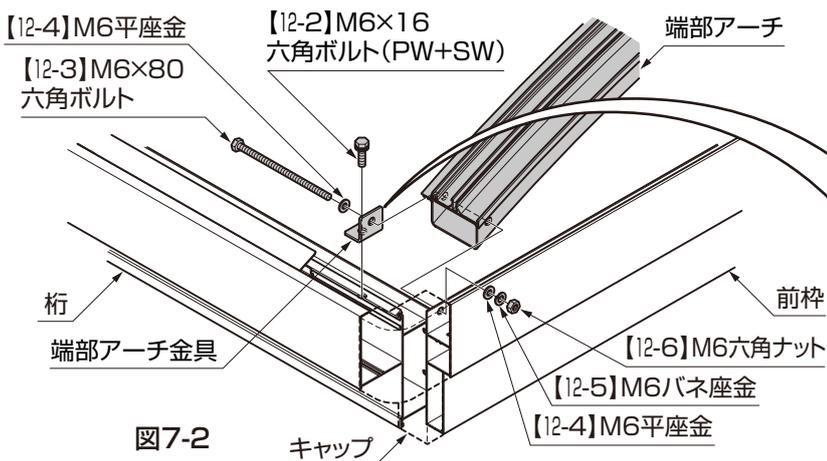
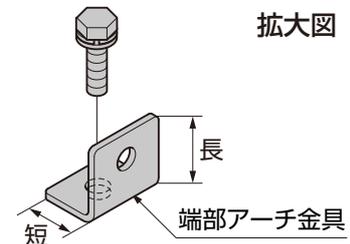


図7-2

- ①端部アーチ金具を【12-2】で桁に取付けてください。
- ②端部アーチを【12-3】、【12-4】、【12-5】、【12-6】で図のように端部アーチ金具と前枠に取付けてください。

#### 拡大図



## 8. 中骨・ワイド中骨の取付け

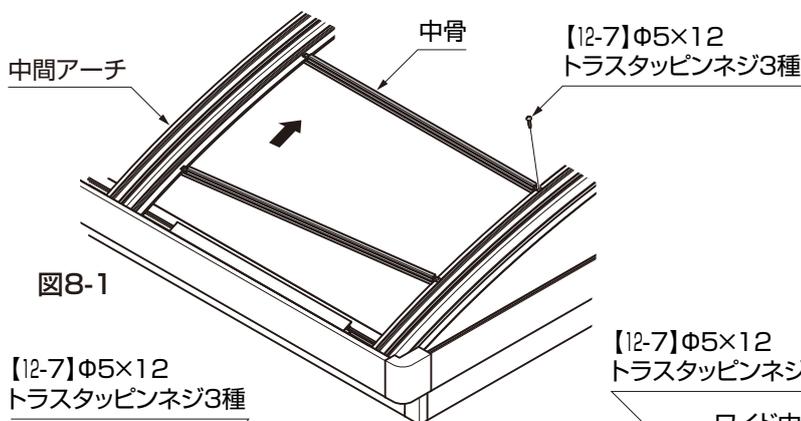


図8-1

#### ポイント

- W30以上の場合はワイド中骨を取付けてください。

- ①中骨のキリカキ部を図のようにアーチにスライドさせてから、【12-7】で取付けてください。

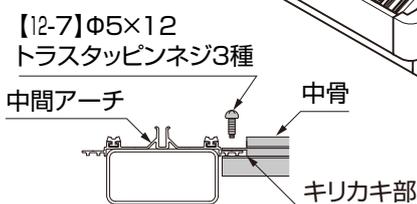


図8-2 中骨の場合

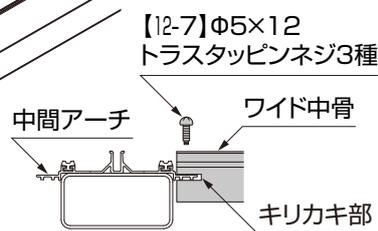


図8-3 ワイド中骨の場合

## 9. 屋根材の取付け

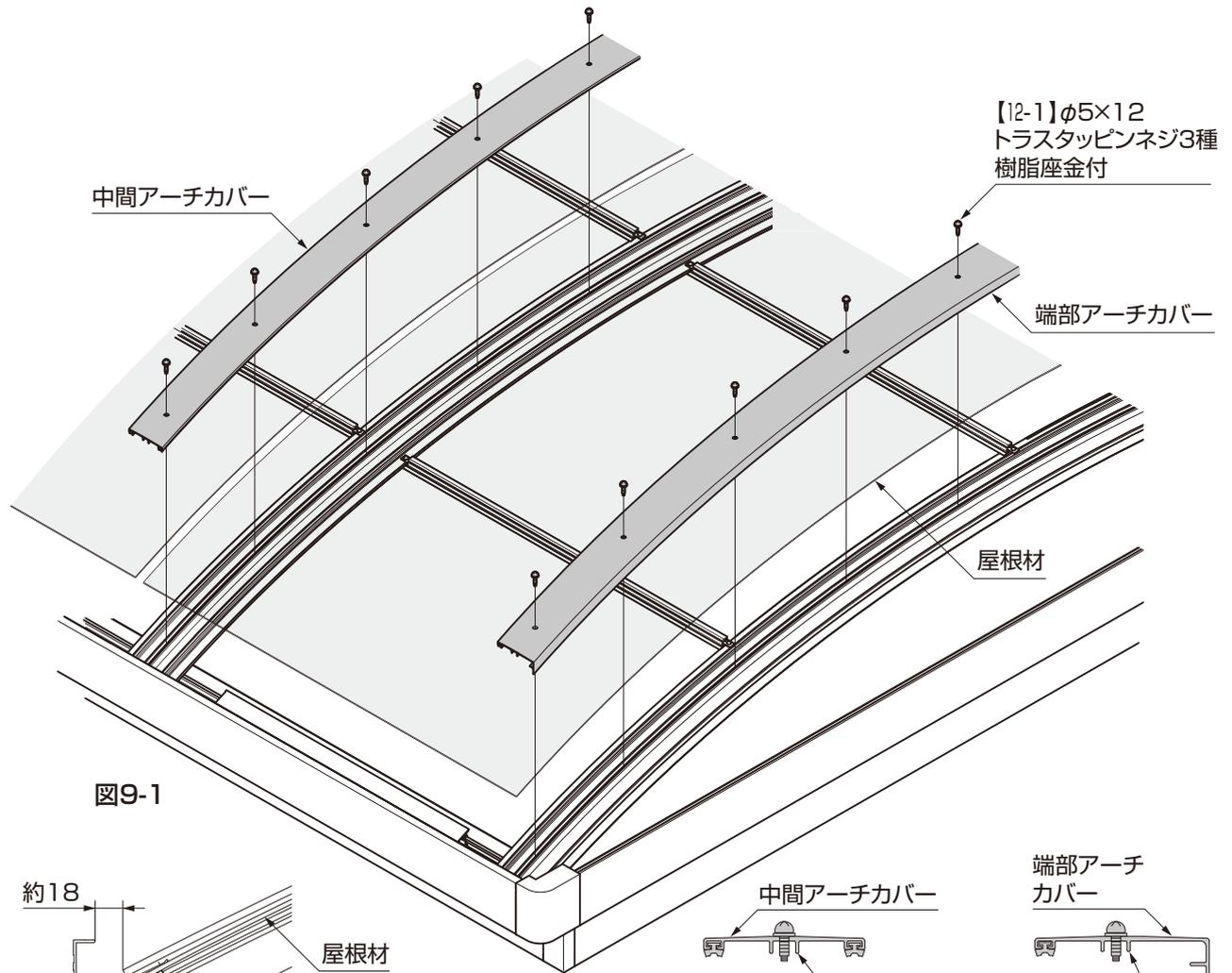


図9-1

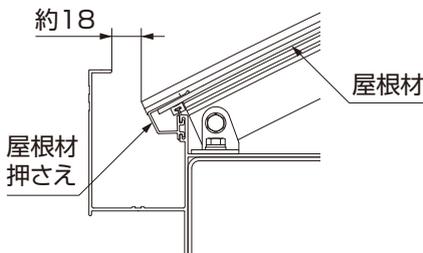


図9-2 屋根材納まり

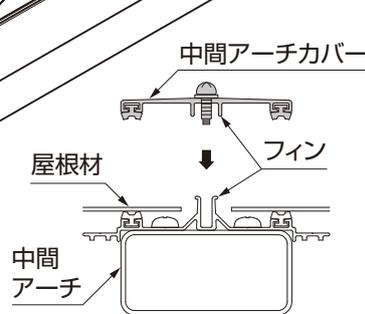


図9-3 中間アーチ断面図

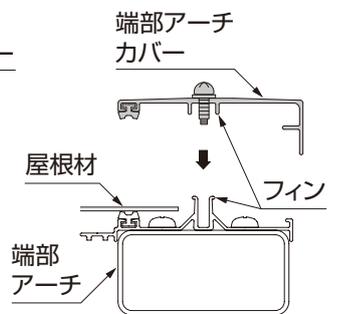


図9-4 端部アーチ断面図

### 注意

- 屋根材のエッジで手を切らないように、保護具をつけてから取付け作業を行なってください。

### ポイント

- 屋根材(ポリカーボネート)には裏表があります。正しい向きで取付けてください。
- 屋根材に保護シートがついている場合は、はがしてください。

- ①屋根材を前後左右均等にアーチに乗せてください。

### ポイント

- 屋根材の縁がアーチのフィンに当たらないようにしてください。アーチカバーが取付けられなくなります。
- 桁と屋根材押さえとのすき間に屋根材を差込んでください。(図9-2参照)

- ②アーチのフィンと屋根材の間に、アーチカバーのフィンを差込んでください。
- ③【12-1】でアーチカバーをアーチの中央から、桁に向かって順番に取付けてください。

## 10. 前面パネル **オプション**

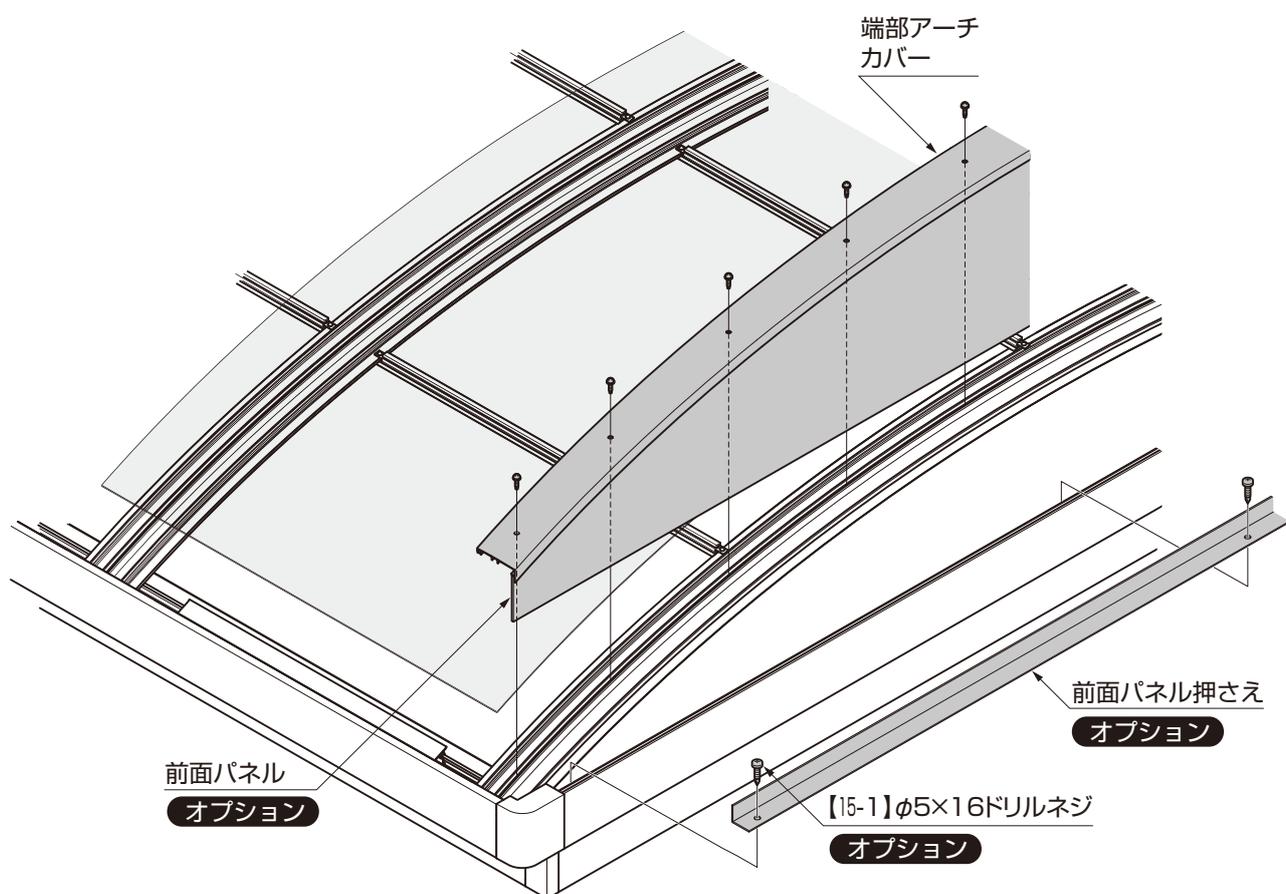


図10-1

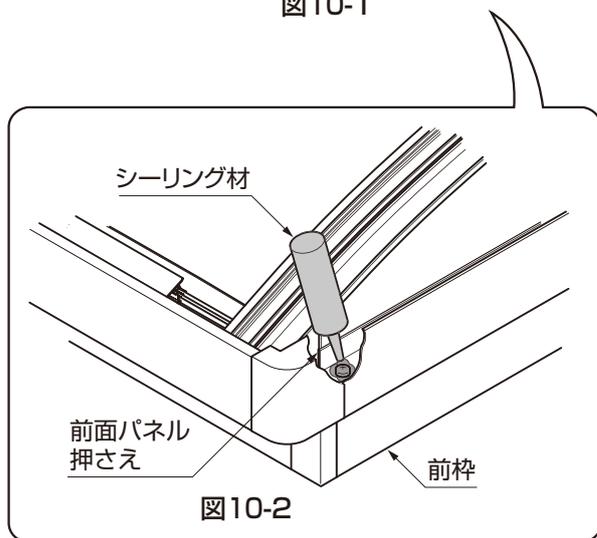
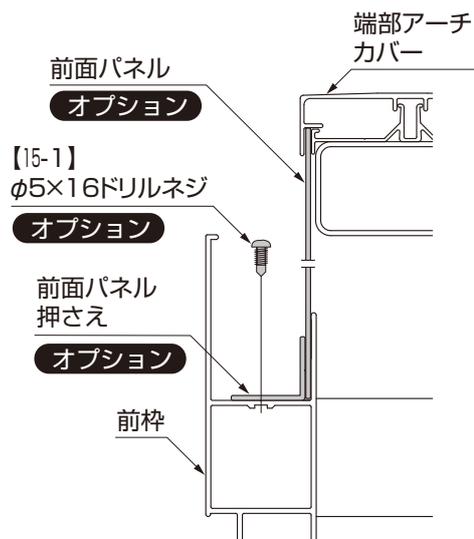


図10-2

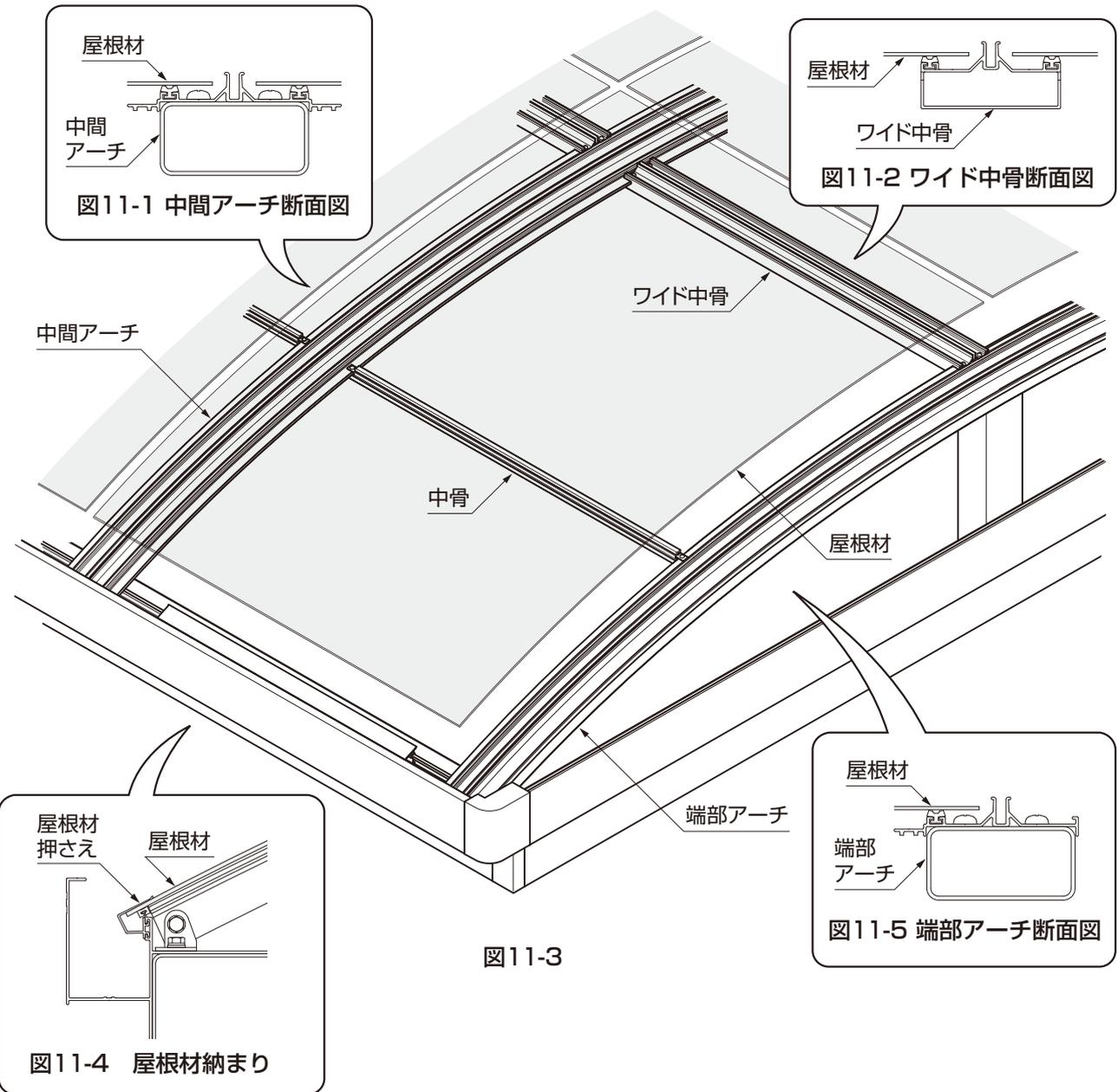


### ポイント

- 前面パネルには裏表があります。正しい向きで取付けてください。
- 【15-1】取付け部にシーリングしてください。(図10-2)

- ①端部アーチカバーの溝に前面パネルをはめ込み、端部アーチカバーを取付けてください。
- ②前面パネルを押さえるように、前面パネル押さえを前枠に【15-1】で取付けてください。

## 11. ワイド仕様の屋根材の取付け



### ⚠ 注意

- 屋根材のエッジで手を切らないように、保護具をつけてから取付け作業を行ってください。

### 🔑 ポイント

- 屋根材(ポリカーボネート)には裏表があります。正しい向きで取付けてください。
- 屋根材に保護シートがついている場合は、はがしてください。

- ①屋根材を前後左右均等にアーチに乗せてください。

### 🔑 ポイント

- 屋根材の縁がアーチのフィンに当たらないようにしてください。アーチカバーが取付けられなくなります。
- 桁と屋根材押さえとのすき間に屋根材を差込んでください。(図11-4参照)

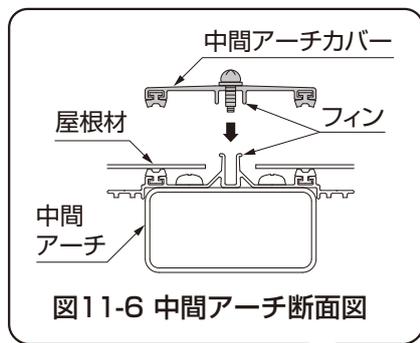


図11-6 中間アーチ断面図

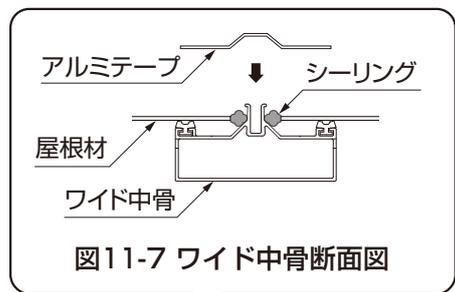


図11-7 ワイド中骨断面図

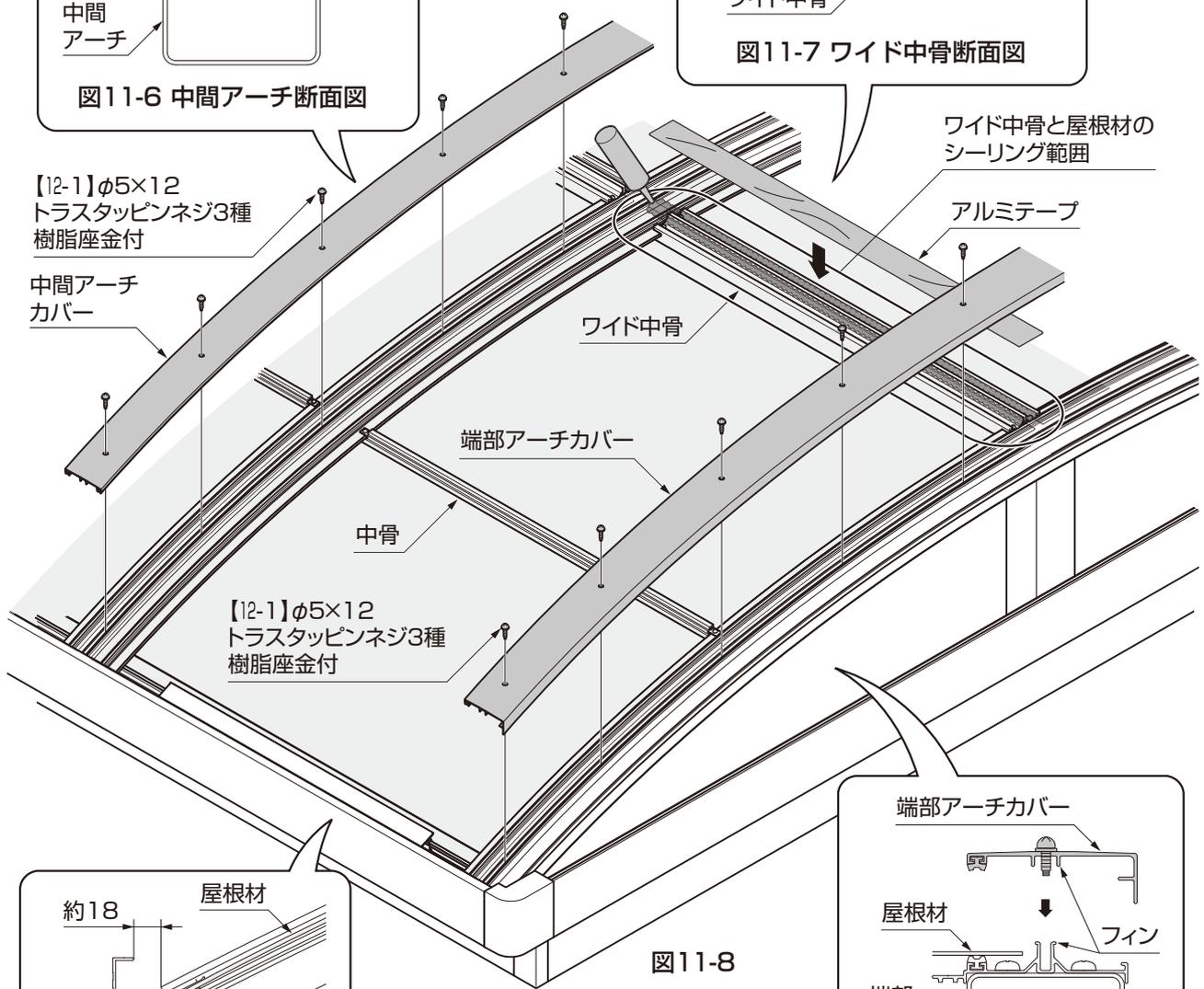


図11-8

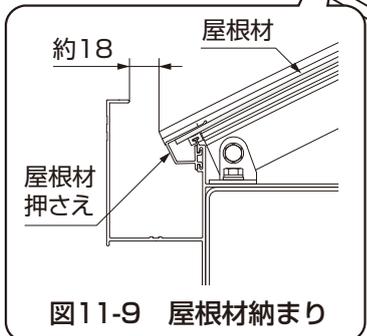


図11-9 屋根材納まり

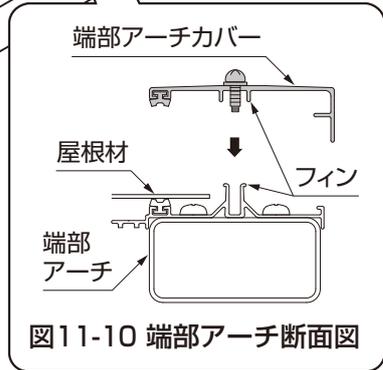


図11-10 端部アーチ断面図

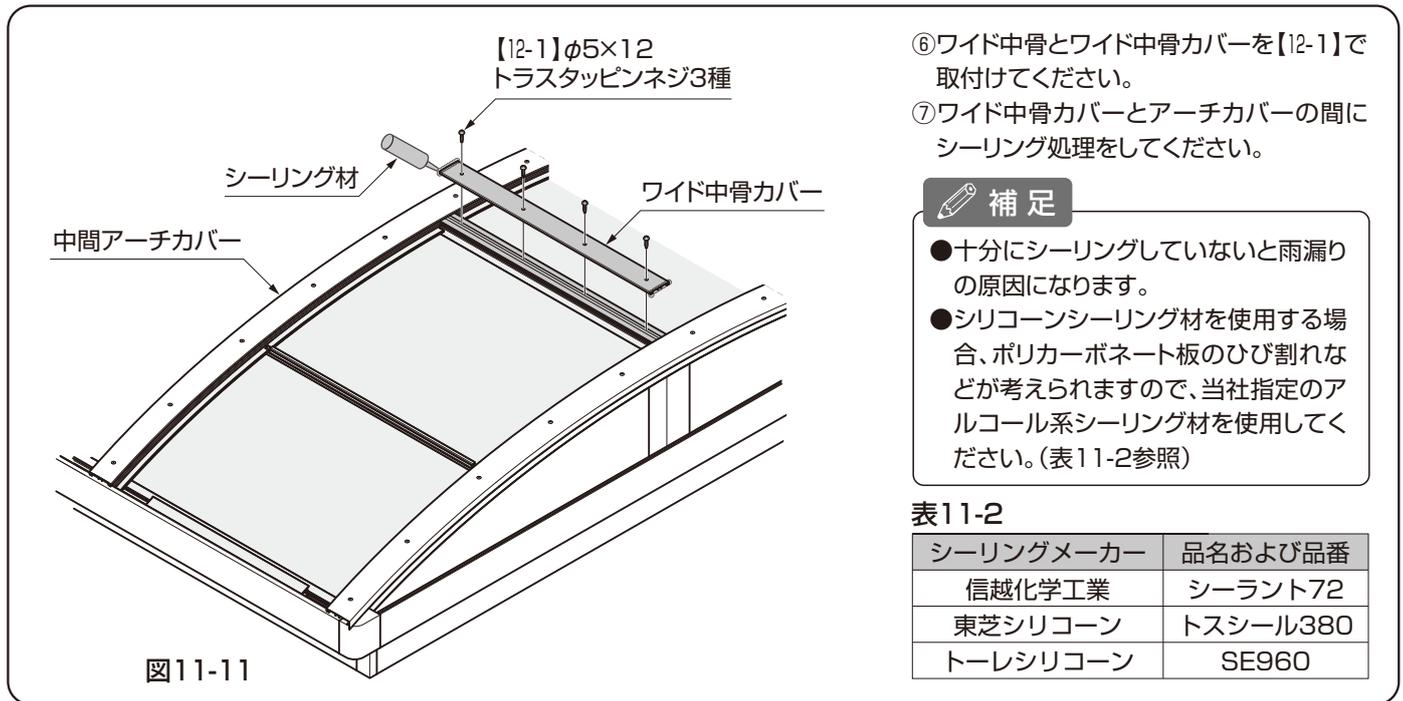
表11-1

アルミテープメーカー	品番
スリオンテック	8060
寺岡製作所	8371
日東電工	AT-50

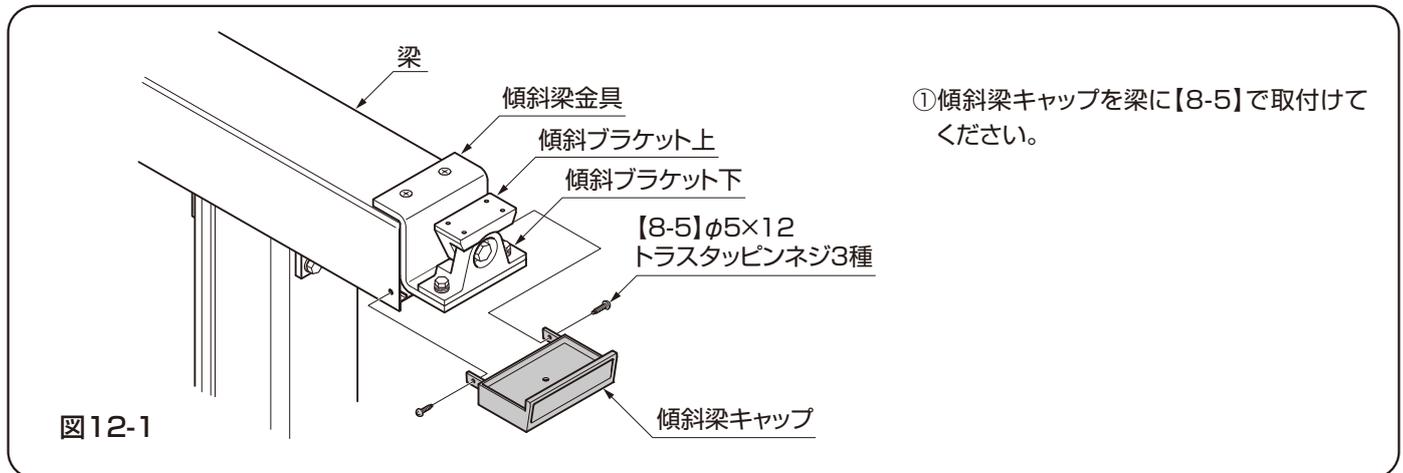
**補足**

●アルミテープが足りない場合、当社指定のアルミテープを使用してください。(表11-1参照)

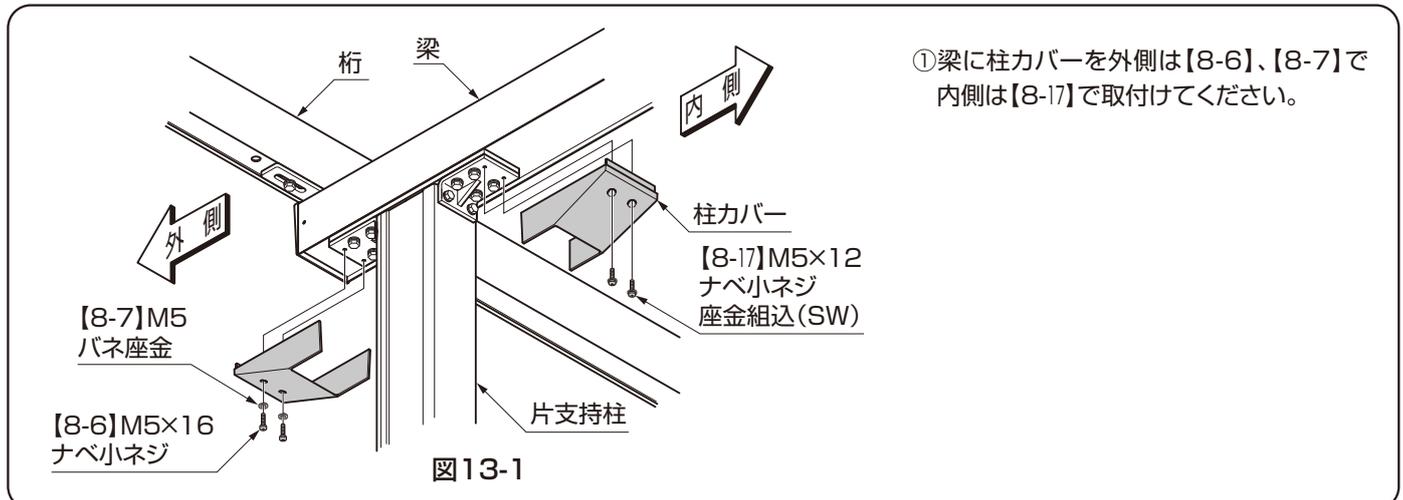
- ②屋根材を乗せたあと、ワイド中骨と屋根材のすき間にシーリングをしてください。(図11-7)
- ③シーリングした上からアルミテープを貼ってください。
- ④アーチのフィンと屋根材の間に、アーチカバーのフィンを差込んでください。
- ⑤【12-1】でアーチカバーをアーチの中央から、桁に向かって順番に取付けてください。



## 12. 傾斜梁キャップの取付け ※片支持柱傾斜仕様の場合の作業です。



## 13. 柱カバーの取付け ※片支持柱の場合の作業です。



## 14. 縦樋の取付け

### 14-1 両支持・ワイドの場合 ※図は両支持です。

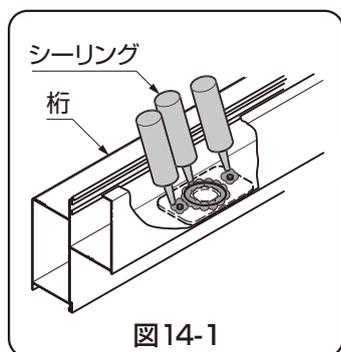


図14-1

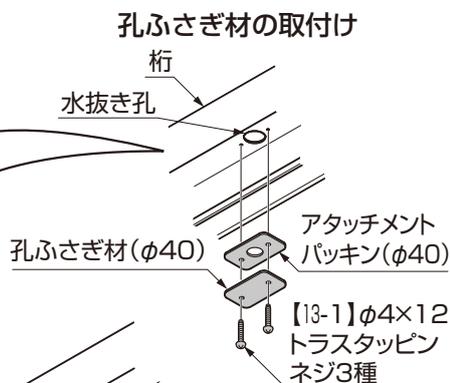


図14-2

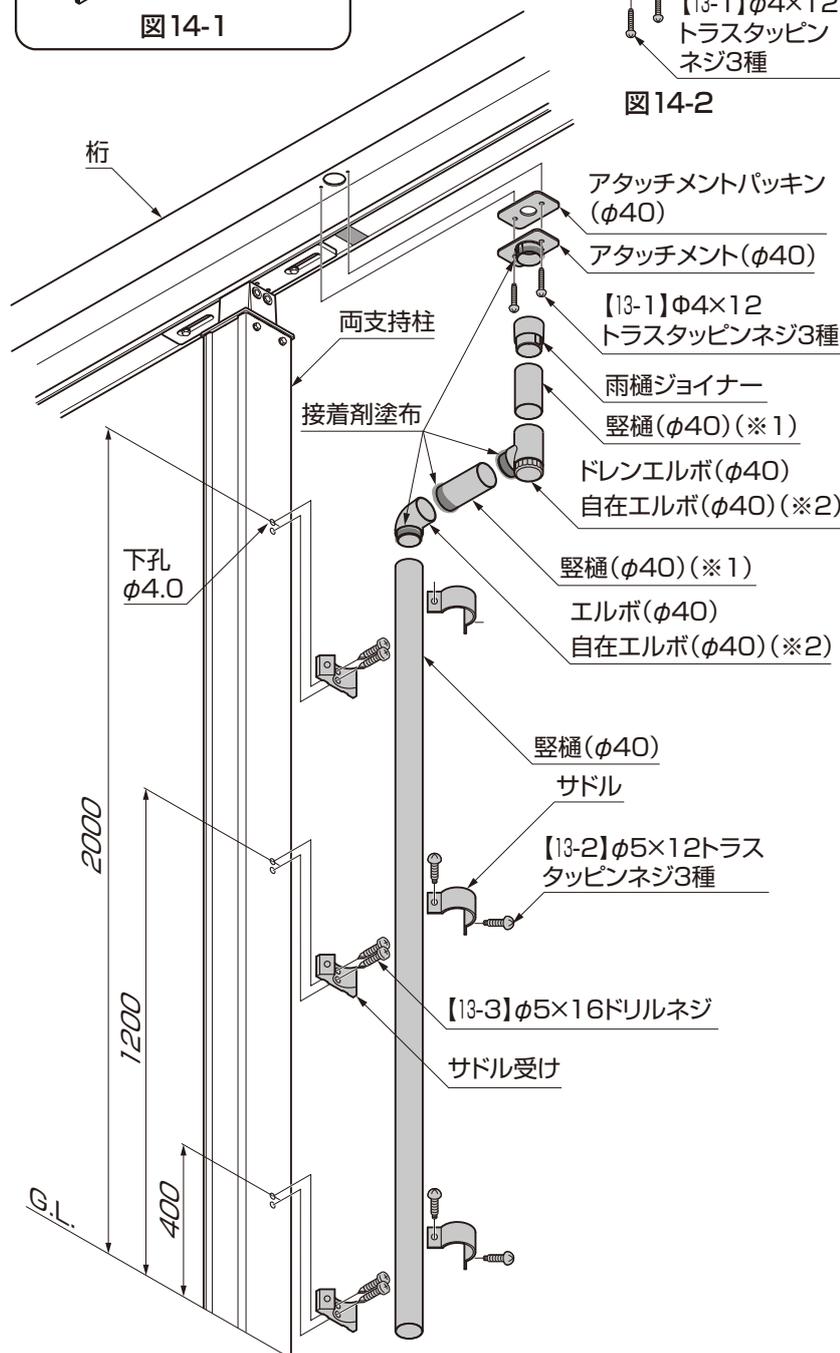


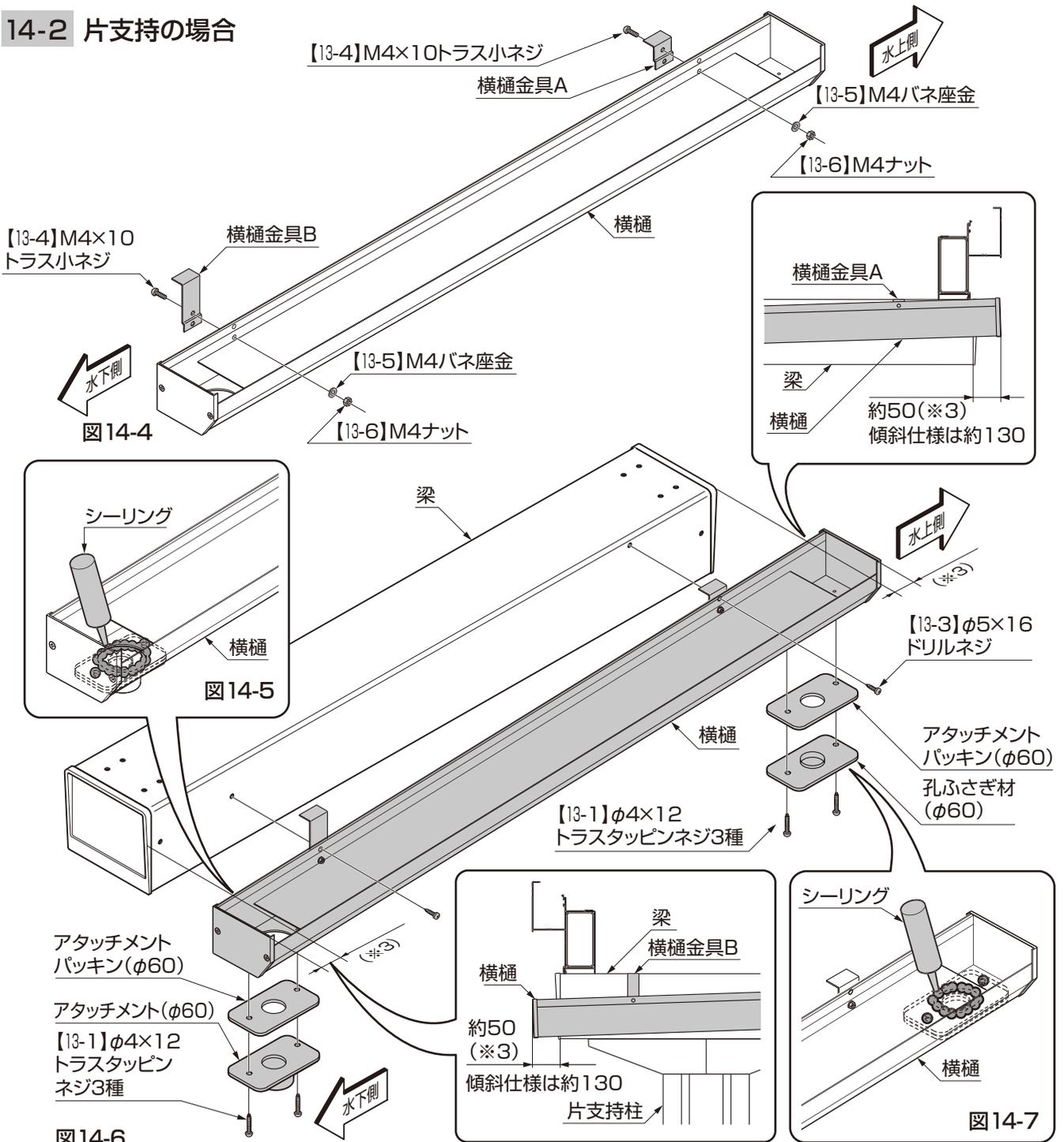
図14-3

### ポイント

- 縦樋は現場に合わせて切詰めてください。(※1)
- サドル受けはGLから400mmと1200mmと2000mmの位置に固定してください。
- アタッチメントまたは孔ふさぎ材取付け後、雨樋部から飛出しているネジの周囲にシーリングをしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。(図14-1参照)
- 5°以上の傾斜の場合は、ドレンエルボ(φ40)とエルボ(φ40)の代わりに自在エルボを取付けてください。(※2)

- ① 桁とアタッチメント(φ40)の間にアタッチメントパッキン(φ40)をはさみ、【13-1】で図のように取付けてください。
- ② アタッチメント(φ40)に雨樋ジョイナー、丸樋(φ40)、ドレンエルボ(φ40)、丸樋(φ40)、エルボ(φ40)、縦樋(φ40)の順で接合してください。その際、接合部は接着剤で固定してください。
- ③ 両支持柱に下穴φ4.0をあけ、【13-3】でサドル受けを取付けてください。
- ④ 【13-2】でサドルと縦樋(φ40)をサドル受けに取付けてください。
- ⑤ アタッチメントを取付けない桁の水抜き孔に、アタッチメントパッキン(φ40)をはさみ、孔ふさぎ材(φ40)を【13-1】で取付けてください。(図14-2参照)

## 14-2 片支持の場合



- ①横樋に横樋金具Bを水下側に横樋金具Aを水上側に【13-4】、【13-5】、【13-6】で取付けてください。(図14-4参照)
- ②横樋を梁からのとび出しが左右均等になる位置(※3)に【13-3】で取付けてください。(図14-6参照)
- ③横樋とアタッチメント(φ60)の間にアタッチメントパッキン(φ60)をはさみ、【13-1】で図のように取付けてください。
- ④横樋のアタッチメント(φ60)を取付けなかった方の水抜き孔にアタッチメントパッキン(φ60)をはさみ、孔ふさぎ材(φ60)を【13-1】で取付けてください。(図14-7参照)

### ポイント

- アタッチメントまたは孔ふさぎ材取付け後、雨樋部から飛出しているネジの周囲にシーリングをしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。(図14-5参照)

## 14. (つづき)

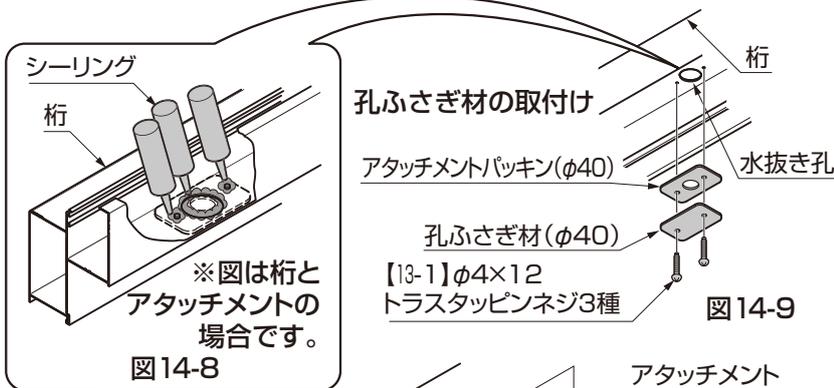


図14-8

### 孔ふさぎ材の取付け

アタッチメントパッキン(φ40)

孔ふさぎ材(φ40)

【13-1】φ4×12  
トラスタッピンネジ3種

図14-9

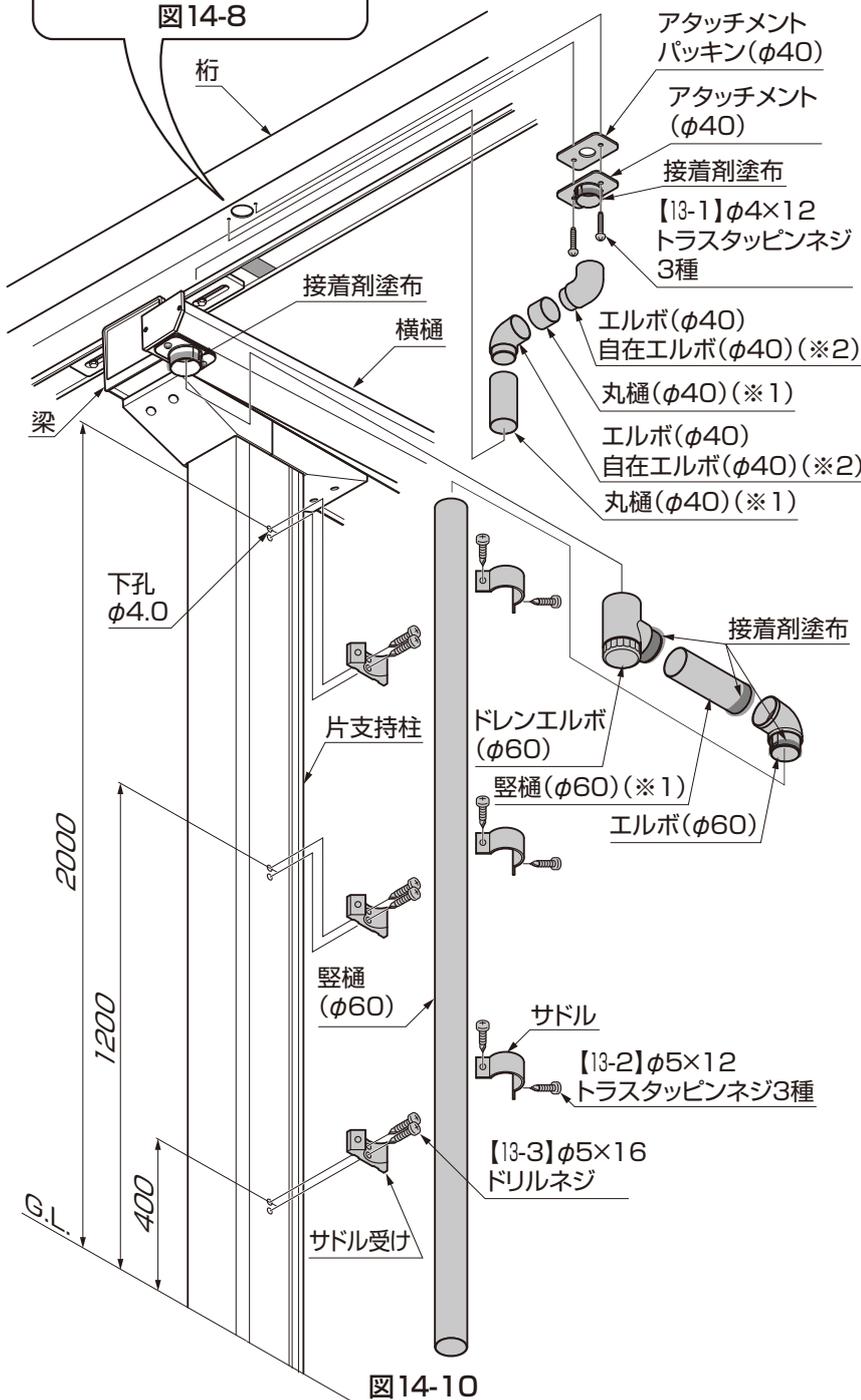


図14-10

### ポイント

- 縦樋、丸樋は現場に合わせて切詰めてください。(※1)
- サドル受けはGLから400mmと1200mmと2000mmの位置に固定してください。
- アタッチメントまたは孔ふさぎ材取付け後、雨樋部から飛出しているネジの周囲にシーリングをしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。(図14-7参照)
- 5°以上の傾斜の場合は、エルボ(φ40)の代わりに自在エルボを取付けてください。(※2)

- ⑤ 桁とアタッチメント(φ40)の間にアタッチメントパッキン(φ40)をはさみ、【13-1】で取付けてください。
- ⑥ アタッチメント(φ40)にエルボ(φ40)、丸樋(φ40)、エルボ(φ40)、丸樋(φ40)の順で図のように接合し、丸樋の先を横樋の中に入れてください。その際、接合部は接着剤で固定してください。
- ⑦ アタッチメントに、ドレンエルボ(φ60)、丸樋(φ60)、エルボ(φ60)、縦樋(φ60)の順で接合してください。その際、接合部は接着剤で固定してください。
- ⑧ 片支持柱に下孔φ4.0をあけ、【13-3】でサドル受けを取付けてください。
- ⑨ 【13-2】でサドルと縦樋(φ60)をサドル受けに取付けてください。
- ⑩ アタッチメントを取付けない桁の水抜き孔にアタッチメントパッキン(φ40)をはさみ、孔ふさぎ材(φ40)を【13-1】で取付けてください。(図14-9参照)

## 15. 壁付けブラケット **オプション**

### 15-1 桁側(側面)に取付ける場合

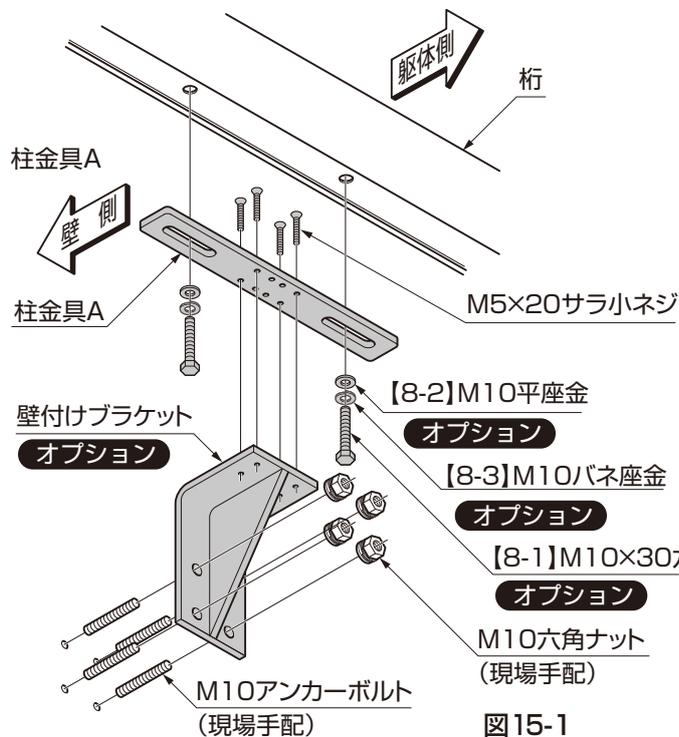


図15-1

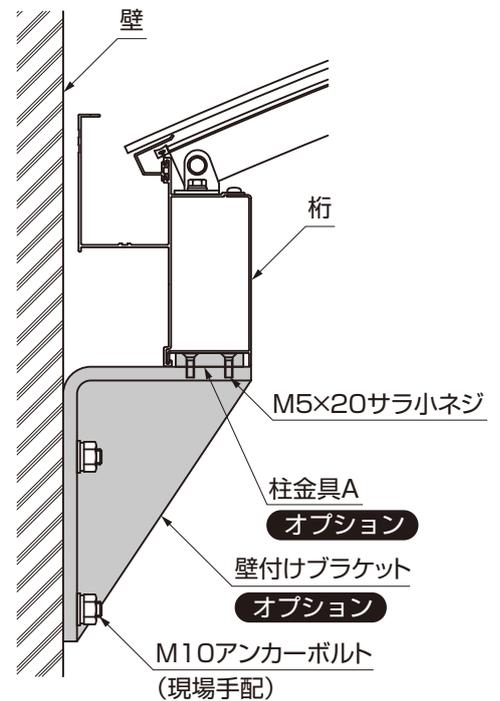


図15-2

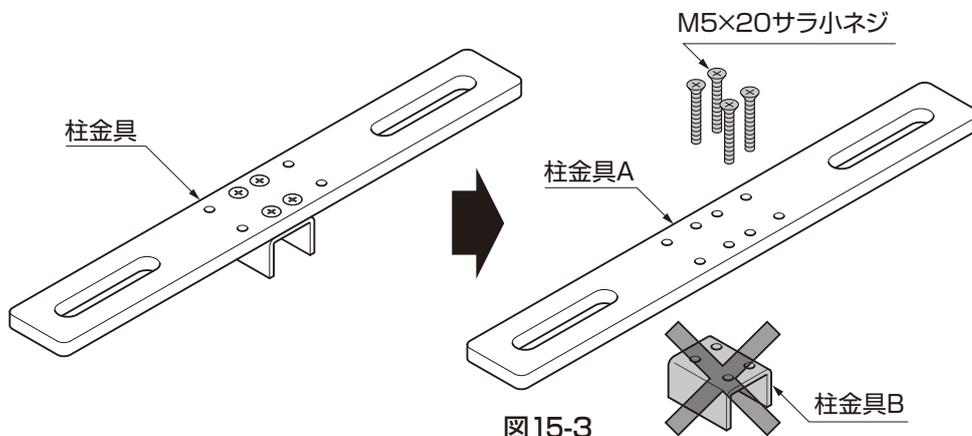


図15-3

#### **注意**

- 壁の強度を十分考慮してアンカーボルトを選定してください。

#### **ポイント**

- 柱部品セット内の柱金具を分解して使用してください。(図15-3参照)

- ①壁付けブラケットに柱金具AをM5×20サラ小ネジで取付けてください。
- ②壁付けブラケットと桁を【8-1】、【8-2】、【8-3】で取付けてください。
- ③M10アンカーボルトで壁付けブラケットを壁に取付けてください。

## 15. (つづき) オプション

### 15-2 前枠(前面)に取付ける場合

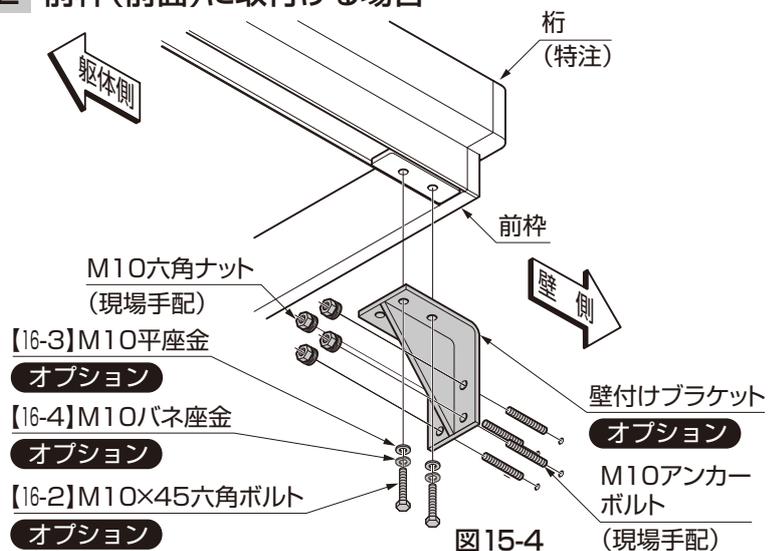


図 15-4

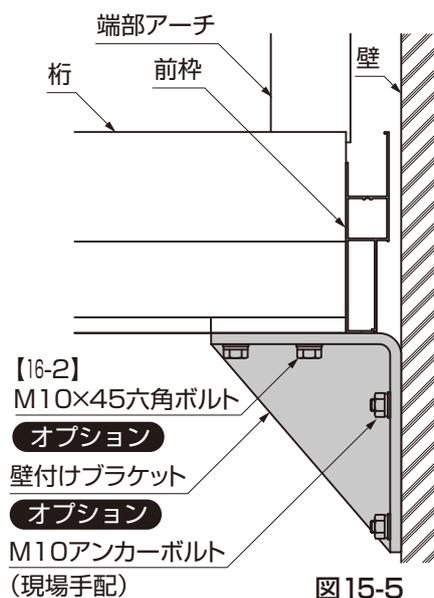


図 15-5

#### 注意

●壁の強度を十分考慮してアンカーボルトを選定してください。

- ①壁付けブラケットに柱金具Aをのせ、【16-2】、【16-3】、【16-4】で桁に取付けてください。
- ②M10アンカーボルトで壁付けブラケットを壁に取付けてください。

## 16. 水切り材 オプション

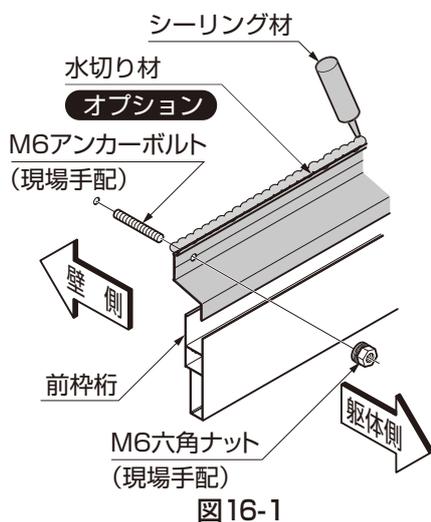


図 16-1

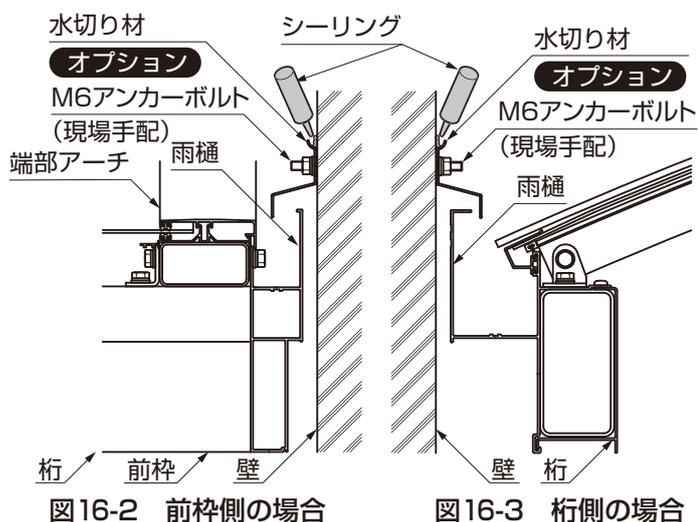


図 16-2 前枠側の場合

図 16-3 桁側の場合

- ①アンカーボルトで水切り材の下部が、前枠または桁の雨樋にかかるように壁に取付けてください。

#### ポイント

●壁と水切り材のすき間をシーリングしてください。十分にシーリングしていないと雨漏りの原因になります。

取説コード

**E276**

JZZ617354F  
200812A\_1041  
201607G\_1039